

九 中国排日問題

595 昭和8年1月25日 在広東吉田総領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

排日運動の横行する限り治外法権の撤廃は困難なる旨を各方面に説示し間接的に中国側の反省を促す方針について

広東 1月25日後発
本省 1月25日後着

第五〇號

往電第四六號ニ關シ

近來救國會其ノ他所謂愛國團體ノ行動聊カ目ニ餘ルモノアルニモ拘ラス中國官憲側ハ事黨部ノ所管ニシテ官憲側ニ於テハ之ニ干渉スルコト能ハスト甚シキ不誠意ノ態度ヲ示スノミナラス内心之等抗日運動ノ擴大ヲスラ望ミ居ルカ如クニシテ正面ヨリ之ニ對シ抗議乃至注意喚起ヲ爲スモ餘リ效果ヲ期待スル能ハサルノ感有リ依テ本官ハ之等必要ナル「ステツプ」ヲ採ル一方外國人ヲシテ中國官民側ニ此ノ種

州、厦門、汕頭へ轉電シ香港へ暗送セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

編注 『日本外交文書』昭和期Ⅱ第一部第一卷第791文書付

記二。

596 昭和8年1月26日 在厦門三浦(義秋)領事より
内田外務大臣宛(電報)

阿片取扱いなど不正業に従事する台湾籍民への公安局の取締強化などに関し同局側と意見交換について

付記 昭和七年十二月三十一日発在厦門三浦領事より
内田外務大臣宛電報第五一五号
反十九路軍勢力による台湾籍民の一部と提携としての同軍打倒計画について

厦門 1月26日後発
本省 1月26日後着

第三七號

十九路軍ヲ代表シテ厦門ニ乗り込ミタル林公安局長カ就任

越軌行動ニ付警告セシムルノ方法ヲ講シ(イ)當地各國領事ニ對シテハ機會アル毎ニ中國カスノ如キ態度ヲ續クルニ於テハ治外法権徹廢ノ如キハ當分問題トナラサル旨ヲ述ヘ(ロ)外國通信員等ニ對シテモ冒頭往電事件ニ關スル情報ヲ與フルニ際シテハ各國領事ニ對スルト同様趣旨ノ意見ヲ附シ(ハ)當地廣東俱樂部等ニ於テ本件話題ニ上レル際ハ常ニ此ノ趣旨ヲ以テ應酬シ(ニ)中國官憲側ト會談ニ際シテモ當地方ニ於ケル外國人側ノ意見ニシテ前述ノ趣旨ヲ述ヘ斯クテ各方面ニ於ケル反對空氣ヲ醸成シ間接ニ中國側ヲシテ反省セシムル様仕向ケントシタルカ治外法権撤廢不容認云々ハ中國人ニハ最モ苦痛ノ如ク二十五日公安局長ニ對シ同様意見ヲ述ヘタル際ニモ局長ハ今後ハ民、刑何レカノ裁判ニ附スルコト無ク處刑セラルルカ如キコト無カル可シト述ヘタリ(此ノ點往電第三六號御參考アリ度シ)

右御參考迄

支、北平、奉天、滿、天津、青島、濟南、南京、漢口、福

早々武器取締リヲ布告スルト同時ニ臺灣人方面ニ之カ遵守勵行方ヲ要求シ又明カニ我籍民ニ對シ挑戰スルカ如キ談話ヲ新聞記者ニ發表スル一方着々其ノ陣容ノ整備ニ努メツツアルカ如キハ福州ニ於ケル遣口ニモ徴シ(福州發本官宛電報第二號)見方ニ依リテハ山雨將ニ至ラントスルノ感無キニ非ス果シテ然ラハ同局長本官來訪ノ前後ニ於ケル言動ハ準備萬端整フ迄我ノ油斷ヲ計ル苦肉ノ策ト觀ルヘキヤ否ヤ同人カ廣東省殊ニ慄慄ノ聞エ有ル潮州出身ナルタケ一層嚴重ナル注意ヲ加ヘ來リタル次第ナルカ同局長ハ早くモ十六日頃ヨリ煙館、賭博等ノ渡世業者取締リヲ開始セル處今日迄籍民側ニハ一切手ヲ觸レス籍民ニ些細ナル犯罪嫌疑有ル場合ニモ鄭重ナル手續ヲ以テ我警察官ノ會同ヲ求メ極メテ慎重ナル態度ヲ示シ又既報ノ抵抗日會ノ活動ノ如キハ事實上之ヲ停止セシメ何等煽動的態度ヲ執ラス其ノ他各方面ヨリ蒐集セル内面的情報ヨリ判斷スルモ左シテ過激ナル手段ヲ以テ我方ニ臨ムカ如キ事無ク前記ノ如キ懸念ハ恐ラク杞憂ニ終ルニ非スヤトモ考ヘラレタルモ此ノ點ハ當地當面ノ重大問題ナルニ付最モ慎重ナル判斷ヲ加フルヲ要シ左レハトテ我ヨリ餘リ心配顔シテ彼ニ接近シ行ク事ハ却テ足下ヲ

見透サルル虞モアリ旁威嚴有ル沈黙ヲ守リ成行ヲ監視シ來リタル次第ナリ

然ルニ二十五日公安局秘書陳國英^{〇〇}(日本(脱)出身)局長ノ代理トシテ本官ヲ來訪シ先ツ

「籍民ノ犯罪人アル場合ノ逮捕上ノ手續等ニ付本官ノ意見ヲ承知シ度ク尙將來誤解發生ヲ避クル爲一定ノ「フオーミユラ」ヲ作成交換シ度キ旨述ヘタルニ付署長ヨリ從來ノ遣方ヲ説明セシメ尙餘リニ理窟ニ走ルハ却テ好結果ヲ齎ス所以ニ非サルニ付大局ニ着眼シ意思ヲ疏通シ充分ニ相互ノ了解ヲ得ルコト先決問題ナリト述ヘタル處憲兵モ駐在スルコトトナリ一層誤解發生ノ機會多クナリタルニ付此ノ點何トカ決定シ置クコト必要ナリト思惟スル旨重ネテ述ヘタルヲ以テ本官ハ行政方面ニ何等經驗無キ憲兵ヲ一般人民ノ取締ニ當ラシムルハ極メテ危險ニシテ是ハ矢張公安局ノ手ノミニテ行フコト然ルヘキ旨説示シタル處陳ハ至極御尤ニシテ其ノ點ハ自分等モ内々懸念シ居リタル所ナレハ憲兵ハ十九路軍士兵ノ取締ニ限ルコトトスル様早(速)局長ニ進言スヘシト述ヘタリ

ニ更ニ陳ハ最近高義カ民軍ヲ糾合シ十九路軍驅逐ヲ計畫シ

點充分御警戒ヲ希望ス然シ本件ト言ヒ高義ノ問題ト言ヒ卒直ニ内報セラレタルハ感謝ニ堪エス話セハ解ルコトナレハ今後トモ此ノ態度ヲ維持セラレ度シト答ヘ置キタリ

四⁽³⁾尙陳ハ公安局經費不足ノ内情ヲ述ヘ臺灣人ヨリ税金ヲ増徴出來ル様御配慮願ヒ度シト述ヘタルニ付本官ハ外國人ハ税金ヲ收ムルモノニ非サルコト御承知ノ通りニテ只臺灣人ハ特ニ公安局ノ御世話ニナリ居ルヲ以テ自發的ニ一定ノ金額ヲ一括シテ寄附シ居ル次第ナリ故ニ本官ノ考フル唯一ノ捷徑^{捷徑}ハ良ク臺灣人ト意思ノ疏通ヲ計リ其了解ヲ得ルニ在リ率直ニ云ヘハ現在臺灣人ハ今ニモ公安局ヨリ壓迫ヲ蒙ムルヘシト脅エ居ル次第ニテ此ノ現狀ニ於テハ到底問題トナラサルヘシ臺灣人ニ於テ良ク新公安局長ノ方針ヲ了解シ切實ニ公安局ノ恩浴ヲ體驗スルニ至ラハ本件ノ如キハ立所ニ解決セラルヘシ之カ爲當館ハ喜ンテ仲介ノ勞ヲ取ルヘキ旨申述ヘタル處早速御話ノ如キ方針ニテ進ムヘキニ付何分ノ御援助アリ度キ旨答ヘタリ

其次テ本官ヨリ廈門ニハ臺灣人ノ不正業者多ク特種ノ情勢ニ在ルコトハ來任後初テ承知シタル處ナルカ自分ハ本國ノ實狀ニモ鑑ミ之等徒輩ノ存在ヲ決シテ感心シ居ルモノニ非

臺灣人ノ之ニ參加セルモノアリトノ噂アリ公安局トシテハ未然ニ豫防策ヲ講スルノ必要アル處此ノ種籍民ニ對シテハ如何ナル方法ヲ以テ臨ムヘキヤト尋ネタルニ付本官ハ烏合ノ衆ヲ以テ十九路軍ニ反抗スルハ螻蛄ノ斧ニ等シク眞面目ノ話トハ受取レス實ハ本年初林知淵カ蔣主席ノ命ニ依リ守屋福州總領事ヲ訪問シ十九路軍反對派カ日本領事館ヲ策源地トシ劃策中ナリトノ噂ハ眞實ナリヤト尋ネタル趣同總領事ヨリ來電アリ我々ハ思ハス吹出シタル次第ナルカスル架空ノ説ニ對シ具體的對策ヲ云爲スルハ馬鹿ラシキモ萬一籍民カ右ノ如キ計畫ニ參與セル事實アリタル場合ニハ早速當方ニ御通報アリ度ク直ニ適當ノ取締ヲ加フヘシト答ヘ置キタリ

其次テ陳ハ海軍官憲廈門ヲ去ルトキ又ハ公安局ニ於テ籍民ノ煙館賭博等ニ彈壓ヲ加フル場合籍民ハ百五十名ノ便衣隊五隊ヲ編成セリトノ諜報ヲ入手シタル處勿論事實トハ思ハサルモ爲念御伺スル次第ナリト述ヘタルニ付當館ニ於テハ臺灣人ノ取締ニハ隨分力ヲ注キ居ルモ右ノ如キ聞込スラ無ク又斯ノ如キコトハ想像タニ爲シ得サル所ナリ何レノ土地ニ於テモ情報「ブローカー」ナル者アリ成ル可ク高キ報酬ヲ得ル爲出來得ル丈ケ刺戟アル情報ヲ生出スヲ常トス此ノ

ス然レ共當地在任ノ日ヲ重ヌルニ從ヒ彼等カ三十年ノ永キ歴史ヲ有シ今日迄存續シ來レル所以ヲ了解シ得ルニ至レル次第ニテ一朝一夕ニ彼等ノ撲滅ヲ計ルニ於テハ將來治安上重大ナル事態ヲ發生スヘキ事疑ヒヲ容レス殊ニ本官着任ト殆ト同時ニ滿洲事件發生シ彼我ノ感情尖鋭化シ頗ル危險ノ狀態ニ陥リシヲ以テ本官ハ差當リ治安維持ヲ最大眼目トシ現狀ヲ維持シ之以上之等徒輩ノ増加跳梁ヲ防キ他日機會至ラハ製造工業ヲ起ス等ノ方法ニ依リ之等ヲ導キテ正業ニ就カシメ漸次減少途ニ絶滅ヲ期スルノ方針ヲ取り來レルモノナルカ又一萬ノ臺灣人ノ三分ノ一ヲ占ムル彼等武力派ヲ實力行使ニ依リ取締ルコトハ現在ノ何倍ノ人員ヲ以テスルモ良クスル所ニ非ラス幸ニ現在僅々十數名ノ我警察官ヲ以テ之カ取締ニ成功シツツアルハ我々カ彼等ヲ精神的ニ羈束ヲ加ヘ且自暴自棄ニ陥ラシメサルニ依リ此ノ點ハ充分諒解ヲ望ム旨説明セル處陳ハ局長モ現在ノ如キ時勢ニ於テハ先ツ現狀維持ニ努ムルノ外無ク追テ適當ノ時機到來セハ日本側ト協力シ正業ニ導キ其撲滅ヲ期シ度シトノ方針ヲ有シ豫々自分等モ申含メラレ居ル次第ニテ恰モ貴領事ノ御意見ト符節ヲ合スルカ如ク一致シ居ル次第ナリ御話ノ次第ハ充分局

長ニモ報告致スヘシト答ヘタリ

六次ニ本官ヨリ尙一ツ申述ヘ置キ度キ事アリ本月十五日ノ新聞ニ依レハ公安局長ハ新聞記者ヲ集メ我カ籍民ニ對シ如何ニモ挑戰スルカ如キ談話ヲナシタルカ之ニ依リ籍民カ如何ニ緊張シタルカハ蓋シ想像以上ニシテ當館警察ニ於テ是等籍民ヲ抑制スルニ甚タ苦心ヲ要シタリ又本官トシテモ局長トノ會談ノ模様並ニ此ノ演說ノ内容ハ夫々政府ニ報告セルニ付政府ニ於テハ三浦ハ局長ニ舐メラレ居レリト見居ルニアラスヤト考ヘ居ル位ナリ局長ハ一体如何ナル考ヘニテ斯ル談話ヲ發表セルニヤ卒直ニ話サレ度シト糾問シタル處右ハ對内政策上述ヘタルモノニシテ決シテ過激行動ニ出ツル意思無キハ先程述ヘタル通りナリ自分ハ其場ニハ居合セサリシモ翌日新聞記事ヲ讀ミタル際モ夫レ程ノ影響アリタリトハ氣付カサリシ次第ナリ今後ハ一層注意スル様局長ニ傳フヘシト答ヘタルニ付本官ハ更ニ當館カ過去一年半ノ間當地ノ治安維持ニ專念努力シ來リタル事ハ目先ノ偏見ニ囚ハレス正當ナル判斷力ヲ有スル廈門人士ノ熟知スル處ナルニ付御聞糺シ有度ク尙自分ハ當地責任官憲カ海軍タルト十九路軍タルト何等變ル處ナキハ勿論ニシテ此ノ點モ特ニ誤

電第三八九號第四八四號等御參照)ヲ具体化シ海軍ト民軍ト相提携シテ立ツ時機到來セリ即チ林司令ハ近ク請暇ノ上南京ニ赴キ其留守中高義指揮ノ下ニ民軍ト讓[○]臺[○]營[○]ノ海軍兵ヲ以テ公安局ヲ占領シ同時ニ暴狀限り無キ第十九路軍懲膺ノ爲閩南救國軍ヲ組織スル事並ニ中央政府ニ反抗スルモノニアラサル旨通電ヲ發スル一方各民衆團體ヨリ南京政府ニ對シ從來ノ海軍官憲ヲ廈門ニ止マラシムル様請願セシメ又南京ニアル林司令モ之ニ呼應シテ政府ノ了解ヲ求メ以テ舊政權ヲ回復維持スルト共ニ陳國輝舊部下等ト連繫シ泉州同安方面ニ漸次軍事行動ヲ擴大シ十九路軍ヲ追拂フ計畫ナリ然ルニ右ニ對シ十九路軍ハ大軍ヲ率キテ押寄せ且ツ恐ラク崇嶼ヨリ廈門ヲ砲撃シ來ル可キニ付市民ヲ兵火ノ巷ヨリ救フノ意味ヲ以テ多數ノ在留民ヲ有スル日本ヨリ軍艦ヲ派遣シ之ヲ阻止セラレ度ク更ニ武器彈藥ノ補給ヲ得レハ一層結構ナル旨申出タルニ付館員ハ斯ル重大問題ニ付テハ責任者カ直接領事ニ面會然ルヘキ旨說示シタルニ楊縣長及高義ニ於テモ直接領事ヲ訪問シ了解ヲ求ムル心組ナルカ今日ハ不取敢自分カ地均シニ參リタル次第ナル旨ヲ述ヘ引取りタル趣ナリ

解無キヲ希望スル旨申聞ケタル處卒直ナル御話ヲ承リ萬事能ク諒解セルニ付委曲局長ニ報告ノ上此ノ上トモ一層良好ナル聯絡ト諒解ニ達スル様努力スヘキ旨述ヘ辭去セリ以上甚タ長文ナルモ當地特殊ノ事情ニ顧ミ相當御配慮ヲ煩ハシ居ル事ト察セラルルニ付特ニ詳細電報ス御諒承アリ度シ在支公使、北平、奉天、天津、濟南、南京、上海、漢口、福州、汕頭、廣東ヘ轉電セリ廣東ヨリ香港ヘ轉報アリ度シ

(付記)

厦門 昭和7年12月31日後発
本省 昭和8年1月1日後着

第五一五號(極秘扱)

往電第五一四號ニ關シ

一廿九日思明縣長楊廷樞(司令部軍法處長ヲ兼ね官民間ニ最モ信用勢力アリ林司令腹心ノ策士)及高義(民軍ノ首領株ニシテ元師團長)ノ代理トシテ王昌盛(福建政治ゴロ臺灣籍)館員ヲ來訪シ十九路軍廈門乗取りノ野心ハ公安局長更迭問題ニ依リ明瞭トナリタルヲ以テ此處ニ從來ノ計畫(往

三同日更ニ司令部外交顧問劉光謙ノ代表者館員ヲ來訪シ廈門ノ政權カ十九路軍ニ歸スルニ於テハ必スヤ抗日會ノ跋扈ヲ來タシ臺灣籍民トノ間ニ大問題ヲ惹起ス可シ就テハ早キニ臨ンテ軍艦三隻位御派遣ノ上警戒相成度キ旨申出タルニ付館員ハ在留民ノ保護取締ノ爲軍艦ノ派遣方ヲ態々貴方ヨリ申出ラレタルハ腑ニ落チサル點アリ旁スル重大問題ハ劉顧問自身ニ於テ直接領事ニ率直ニ話サルル方可然シト思料スル旨答ヘタル由ナリ

三越ヘテ三十日夜楊廷樞、高義、王昌盛外一名來館々員ニ面會ヲ求メ楊ヨリ廈門民衆並ニ閩南救國(脫)ノ代表トシテ御伺ヒシタルモノナリト前置キシ前顯王ノ談話ト略同様ノ計劃ヲ述ヘ要スルニ吾人最後ノ目的ハ閩人治閩主義ノ貫徹ニアル處御援助ニ依リ現政權ヲ維持スルヲ得ハ從來以上ニ日本ノ御意向ニ副フ様致スヘク一方十九路軍ノ勢力削減ニ付テハ蔣介石モ豫々心掛ケ居ル處ニシテ今同ノ計劃ニ付テモ暗黙ノ了解アリ又廈門二十九路軍カ乘込ムコトナレハ同軍ノ對日感情ヨリ見テ日本ニ於テモ必スヤ籍民保護ノ手段ヲ講セサルヲ得サル事態ニ立到ルヘキニ付此ノ籍民保護ヲ理由ニ然ルヘク十九路軍ノ衝撃ヲ阻止セララル様願ヒタ

シト述ヘタルニ付館員ヨリ本計劃ニ對スル林司令ノ態度並ニ關係如何ヲ反問シタルニ實ハ自分ハ民軍ノ代表トシテ來レル者ナルカ現ニ官職ニアル身分ニモアリ此處ニ林司令ノ名ヲ持チ出ス譯ニ行カス又林司令(カ)自分ノ今夜ノ來訪ヲ知ルヤ否ヤニ付テモ申上ケ兼ヌルニ付然ルヘク了解アリ度唯領事ノ御意向ニ依リ林司令南京行ノ日取モ決定スヘシ尙今後高義等カ自分ノ代表トシテ御伺ヒスルコトアルヘシト述ヘ本官トノ面談ヲ差控ヘ引取りタル趣ナリ

支、北平、濟南、天津、南京、上海、漢口、福州、廣東、汕頭、香港ヘ轉電セリ

597 昭和8年1月31日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

改組後の福建省政府の対日態度について

福州 1月31日後発
本省 1月31日後着

第三七號

一、改組後ノ省政府要人特ニ蔣光鼐、范其務及公安局長等ニ本官トノ接近ヲ迴避スル態度アルコトニ付テハ往電第一號

官ハ一、二八紀念日ノ直後ニテモアリ正式ニ申入ヲナスハ如何カト存シタルモ先方ノ出方ヲ見ルモ一興ト考ヘ三十日朝右ノ趣林知淵ヲ經テ先方ニ通シタル處簡單ニ先方ヨリ承諾ノ旨電話アリ午后三時蔣ヲ訪問セル處極メテ打融ケタル態度ヲ以テ蔣自身以外ニ通譯一人ノミヲ陪席セシメテ本官等三人ト談話シ本官等ノ挨拶ニ對シテ現在日支間ニ紛争アルモ右ハ局部的出來事ニ過キス日支全般ノ友好關係ハ之ニ依リテ影響ヲ受クヘカラスト述フル所アリ特ニ本官ニ對シテハ從來ヨリモ密接ニ交際シ一切ノ交渉ヲ儀式張ラスニ友誼的方法ニ依リ處理スルコトトシタシト繰返シ語リタリ曩ニ公式訪問ノ際數語ヨリ發セサリシ彼ニシテ此事アリタルハ本官ノ意外ニ感シタル所ナリ

ニ以上ノ事實ハアルモ省政府要人ノ態度カ何ノ程度迄緩和セラレ居ルヤ見極付カス福建全省ニ抗日救國ノ氣分相當アリ現在蔡廷楷等カ頻リニ北上ヲ宣傳シ居ル此際省政府力急ニ親日的トナルカ如キハ期待シ難ク從テ本官ヨリ借款整理ノ問題ヲ持出シ先方ニ於テ話ニ乗リ來ルニハ尙相當ノ時日ヲ要スル様觀測セラル省政府ノ態度ニ付テハ豫テヨリ重視シ居ラル儀ト存シ不取敢

中ニ言及セル次第ナルカ其(後)本官ハ有ラユル機會ヲ捕ヘ先方ニ接近スルニ努メ又日本ノ南支攪亂計畫其ノ他ニ關シ其ノ全然根據ナキ風説ナルコトヲ林知淵ヲ通シテ蔣ニ徹底セシメ以テ先方ヘノ日本ノ政策ニ關スル疑惑本官ニ對スル警戒ヲモ解カシムルコトニ腐心シ更ニ一方臺灣籍民特ニ不正業者ニ公安局ノ舊警察官ト紛擾ヲ醸スヘカラサルコトヲ戒告スルト共ニ他方警察官ト公安局警察官トノ聯絡ヲ密接ニシ以テ煙館及賭博等ノ些細ナル事件ニ依リ無益ニ公安局長ノ感情ヲ刺戟スルコトヲ極力防止シ來リタル次第ナルカ漸ク最近ニ至リ先方ノ態度多少緩和ノ傾向ヲ看取シ得ルニ至レリ右ハ公安局長ト出先下級警官ノ偽ノ報告ヲ取上ケ輕卒ニ本官ニ抗議ヲ爲ス例少シク減少セルコト及往電第三六號ヲ以テ報告ノ通蔣光鼐カ曩ニ民衆救國會カ差押ヘタル臺灣向ケ輸出ノ材木ノ解除ヲ命シタルコトニ依リ推知シ得ル處ナルカ政府要人ト會同セル際ノ彼等ノ本官ニ對スル態度ニモ從來ニ比シ自由且開放的ナル處アルヲ認ム

(2) 更ニ一月卅日日本官軍艦五十鈴ノ山田艦長同道蔣ニ面會ノ際ノ蔣ノ態度ハ特ニ本官ノ此點ニ關スル印象ヲ深カラシメタリ(廿九日夜艦長ヨリ出シ拔ケニ蔣訪問ノ希望ヲ申出テ本

前電ノ通轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

598 昭和8年2月16日 在南京上村總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

輸入貨物原産國標記条例の実施延期に関する

新聞報道につき外交部に照会について

付記一 昭和七年十二月二日発在中国有吉公使より内

田外務大臣宛電報第一三八八号

原産國標記条例の立法院での審議状況について

二 昭和七年十二月二十四日発内田外務大臣より

在中国有吉公使宛電報第四九七号

右条例の実施延期を中国側に申入れ方訓令

三 昭和七年十二月二十七日発在南京上村總領事

代理より内田外務大臣宛電報第八六〇号

右実施延期方を外交部に申入れについて

南京 2月16日後発
本省 2月16日後着

支發客年往電第八一六號及第八一七號ニ關シ
最近ノ新聞ニ本件原產國表記條例ハ實施ヲ延期シ八月ヨリ

施行ノ事トナリタル旨ノ記事有リタルニ依リ十六日外交部
次長徐謨ト會談ノ際右記事ヲ示シ其ノ注意ヲ喚起シ次イテ
條例ノ實施阻止方更ニ努力アリ度キ旨要求シタル處徐ハ
種々申譯ヲ述ヘ居タルカ結局關係方面共協議シ何トカ考慮
ス可キ旨述ヘタリ委細郵報
支、北平、滿、奉天、青島、天津、漢口、廣東、牛莊、安
東、關東長官ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ニ轉報アリ度シ

(付記一)

上海 昭和7年12月2日後發
本省 昭和7年12月2日後着

第一三八八號

支那側ニ於テハ東三省令及日貨排斥ノ目的ヲ達スル爲輸入
品原產國名標記[○]制度採用ノ計畫アルヤノ趣ニテ注意中ノ處
最近內密ニ入手シタル立法院議事錄ニ依レハ本件審議ノ經
過大要左ノ通(本件出所ハ外部ニ漏レサル事ト致度シ)

編注

昭和七年十二月十九日發在南京上村總領事代理より
内田外務大臣宛電報第八三八号により本件条例は同
月十六日公布の旨報告があつた。

(付記二)

本省 昭和7年12月24日後9時0分發

第四九七號

南京發本大臣宛電報第八三八號ニ關シ
貴電第一三八八號ニ依レハ本件條例ハ公布六ヶ月後實施ノ
コトトナリオル処右實施ヲ見ルニ至ラハ本條例制定ノ目的
如何ニ拘ラス結局排日團體ニ對シ徹底的ニ日貨排斥ヲ行フ
ノ便宜ヲ與フル結果トナリ兩國ノ關係ヲ益々惡化セシムル
虞アリ特ニ現下ノ事態ニ於テ此種條例ノ公布ヲ見タルハ頗
ル遺憾トスル所ナルニ付右條例ヲ廢止セザルマデモ少クトモ
本件實施ヲ見合ハスコト然ルヘキ旨此際支那側ニ申入レ置ク
コトト致度就テハ右交渉方可然御取計相成結果同電アリタシ
貴電ト共ニ南京ニ轉電セリ
北平、天津、青島、漢口、廣東、滿、牛莊、安東、奉天、
關東長官ニ轉電セリ

十月二十一日立法院委員陳長衡、賈士毅等ヨリ草案ヲ提出
シ(理由ハ狡猾ノ徒ノ原產地詐稱ヲ防キ國產ヲ獎勵スル爲
各國ノ例ニ倣フト謂フニアリ特ニ日貨防止云々ノ點ニ言及
シ居ラス)右草案ヲ立法院所屬ノ經濟財政及外交ノ三委員
會ノ共同審議ニ附シ三委員會ハ財政部及實業部代表者ト連
席會議ヲ開キ審議ノ結果

十一月十九日左記要項ノ「輸入貨物原產國標記條例」五ヶ
條ヲ決定シ追テ立法院ニ提出スル運ヒトナリタル趣ナリ
第一條輸入貨物及其容器又ハ包裝ニハ中國文字及原產國文
字ヲ以テ原產國名ヲ標記スヘシ

第二條標記無キ貨物ハ海關監督ノ下ニ補記セシム補記セサ
ル時ハ輸入ハ禁止ス

第三條標記ノ爲貨物ノ價值ヲ損スルモノ、過大ノ費用ヲ要
スルモノ、容器又ハ包裝ト共ニ販賣スル貨物ニシテ容器又
ハ包裝ニ標記アルモノ、性質上標記シ得サルモノハ標記ヲ
要セス

第四條標記ノ曖昧ナルモノハ沒收ス

第五條公布六ヶ月後施行ス

南京ヘ轉電セリ

(付記三)

南京 昭和7年12月27日前發
本省 昭和7年12月27日前着

第八六〇號

本官發支宛電報

第八一六號

大臣發在支公使宛電報第四九七號ニ關シ
二十六日本官外交部次長徐謨ト會談スル機會アリタルニ依
リ本件條例ヲ示シタル上冒頭本省御訓令ノ趣旨ヲ述ヘタル
ニ徐ハ一應理屈ヲ云ヒタキ性質ニテ實ハ本件條例ハ始メテ
見タル次第ナルカ自分ハ本條例ノ實施ニ依リ排日ヲ惡化セ
シムヘシトハ思ハス此點貴官ト見解ヲ異ニス等ト述ヘタル
カ本官ノ說得ニ依リ大体納得シタル模様ニテ最後ニハ本條
例ハ來年六月ヨリ實施セラルルモノナレハ急ニ慌テルニモ
及ハサルヘシ先ツ主管廳ニ就キ條例ノ目的ヲ問合セタル上
之ニ代ル案アラハ取換ヘルモ可ナルヘク實施延期モ其上ニ
テ考慮スヘキ旨ヲ約シタリ
然ルニ同日本官鮑行政院政務處長トモ會談ノ機會アリタル
ニ依リ鮑ニモ同様ノ話ヲナシタル處鮑ハ良ク事情ヲ了解シ

外交部側トモ聯絡シ主管廳トモ懇談シ貴官ノ申出達成ヲ援助スヘキ旨述ヘタリ右不取敢
大臣、滿、北平、奉天、天津、青島、漢口、廣東、安東、牛莊、關東長官ニ轉電セリ

599 昭和8年2月17日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

熱河攻略に伴う中国各地在留邦人の保護措置について

上海 2月17日後発
本省 2月17日後着

第一〇四號(極秘)

熱河問題愈々進展スルニ伴ヒ發生スヘキ支那各地ノ情勢ハ當方累次ノ電報及各地ヨリノ報告ニ依リ大体御推察ヲ得ヘキカ如ク南京政府及各地要人連ハ口ニハ熱河攻略ニ對スル積極的抵抗ヲ盛ニ唱ヘ居ルモ我強硬ナル對案及國際關係等ヲ顧慮シ各地在留邦人ノ生命財産ニ直接危害ヲ及ホスカ如キ事ハ少クトモ當局者トシテハ嚴ニ取締リ相當ノ保護ヲ加フヘシト一應ハ考ヘラルルモ支那側ニ於テ聯盟及列國トノ

マリ支那官憲ト出來ル丈ケ友好關係ヲ持續スルニ努ムト共ニ居留民保護又ハ情報入手等ニ當ルコト然ルヘシ(假ニ支那側ニ於テ聯盟規約ヲ楯ニ假令戰爭ニ至ラサル迄モ或種ノ國交斷絶ノ手段ニ出ツルヤモ計ラレサルカ此ノ場合ニ於テモ大体右ニ準シ其ノ實情ニ適スル様各地ニ亘リ個々ニ措置スルコト然ルヘシト存ス)

ニ、居留民モ主義トシテ最惡ノ場合迄ハ現地ニ留マラシムヘキモ強ヒテ現地保護ヲ行フ結果我陸海軍ト支那軍隊又ハ民衆トノ間ニ衝突ヲ生スルカ如キコトアリテハ現下ノ國際情勢上甚タ面白カラス又夫レ迄ニシテ現地保護ヲ行フコトハ現在ノ通商狀態ニテハ必スシモ實益ヲ伴ハサル次第ナレハ熱河一段落トナリ前途ノ見透着ク迄支那各地ニ付出來得ル丈ケ隱忍自重シ衝突ヲ避クルヲ得策ト認ムル處右ノ見地ヨリ

(イ)各地ニテ危險ノ情勢迫リタル場合ハ當方ニ於テ南京政府ニ又各地領事ニ於テ地方官憲ニ嚴重申入レ保護取締ニ任セシムルコト勿論ナルカ同時ニ必要ノ場合ハ領事ノ裁量ニテ居留民ヲ先ツ安全地帯ニ集合セシメ保護ス(ロ)更ニ危險切迫セハ山東地方ハ青島ニ、長江上流ハ漢口

其ノ後ノ關係ニ鑑ミ積極抵抗ヲ擴大セシムル場合ハ勿論然ラサル場合ニ於テモ人心ノ激發スル處官憲ノ制御モ及ハサル事アルヘク又熱河攻略ニ伴ヒ張學良延ヒテハ蔣介石及南京政府ノ地位ニモ大變動ヲ來サストモ限ラス斯ル際ハ各地ノ當局者モ自己ノ地位保持ニ專念シ取締ノ行届カサル事若ハ輿論ニ反シテ日本人保護ニ力ヲ盡シ難キ事モアリ得ヘシ又其ノ間反蔣派ノ策動若ハ共產黨ノ進出モアルヘク且支那軍隊ノ常トシテ異常ノ際ニハ如何ナル不測ノ事件ヲ發生セシムルヤモ保シ難シ

當方面ニ於ケル今日ノ情勢ハ往電第七四號^(註)ノ如ク甚タシク切迫セル次第ニアラサルモ相當ノ不安ヲ包藏スルモノアルニ付早キニ及ンテ是等各種ノ場合ヲ考慮シ此ノ際居留民保護ノ方策ヲ決定シ置クコトハ萬全ヲ期スル所以ト存ス右ニ付卑見左ノ如キ處是等ハ何レモ各地領事ヲシテ豫メ充分研究手配セシメ置ク必要アル事項ナレハ至急御研究ノ上何分ノ儀御回電ヲ請フ

ニ、熱河攻略ノ結果支那側ハ或ハ駐日公使ノ引揚ヲ命スル等ノコトアルヤモ計ラレサルカ我方ハ之ニ顧慮セス當地及北平ハ勿論其ノ他各地領事館モ事情ノ許ス限り現地ニ留

ニ、同下流ハ上海ニ出來得レハ自發的ニ已ムヲ得サレハ命令ヲ以テ避難セシメ南支各地ハ夫々臺灣其ノ他内地ニ引揚ケシム

(イ)漢口、上海、山東、北平、天津ニ付テハ現地保護ヲ爲スヘキ事客年九月「國際關係ヨリ見タル時局處理方針案」御來示ノ次第アリタルカ此ノ際ハ上述各般ノ事情モ考慮ニ入レ情勢ニ依リテハ漢口ハ勿論上述ノ如ク濟南其ノ他ノ地ト雖現有兵力ニ依ル現地保護ノ見込立タル場合ニハ之カ一時引揚ヲスル事已ムヲ得サルモノアリト存セラル、此ノ點ニ付テハ豫メ内定シ置ク事必要ナルヘシ

三、以上避難又ハ引揚ノ時期及具體的方法ハ本使ニ於テ(但シ北支ニ付テハ北平公使館ニ於テ)各方面ノ情報ヲ判斷シ當該領事ト協議決定スル事ト致度シ各地領事ハ所在ノ陸海軍側ト密接聯絡ノ上右避難又ハ引揚ノ具體的方法ニ付打合セ決定シ置クト共ニ(從來各地ニ於テ夫々避難方法ニ付テハ一應打合セアル次第ナルモ)時局緊張ノ際ハ不斷ニ情勢ヲ報告スル事
四、尙此ノ際左ノ點ハ豫メ充分手配シ置クコトヲ要ス

(イ)各地居留民中ノ不良又ハ過(激)分子ハ充分取締ル必要アラハ在留禁止等ノ(脱)ヲ執リ以テ我方ヨリ不慮ノ事態ヲ惹起スルコトナカラシム

(ロ)緊急ノ場合在留民中ノ在郷軍人又ハ町内會等ニ於テ自警等ニ當ラシムルコトハ可ナルモ之ニ過大ノ權限ヲ與フルコトナク總テ領事ノ指揮ノ下ニ行動セシム

(ハ)避難又ハ引揚ノ場合必要ナル船舶ノ調査、船會社トノ打合等ニ付豫メ研究シ置クト共ニ本省ニ於テモ日清汽船等ニ對シ御用船契約ニ付必要ノ準備ヲ爲シ置カルルコト(從來ノ體験ニ依レハ日清汽船等ハ支那船員等下船ノ場合又ハ現在繫船シ居ルモノハ就航セシムル場合必要ナル日本人船員補充ニハ約一ヶ月ヲ要スルカ如シ)

(ニ)在留民ノ遺留財産ハ當該支那官憲ヲシテ責任ヲ以テ保護セシムル様取計フ事此ノ場合財産目錄ヲ作成シ支那側ヲシテ認證セシムル事最有效ナレハ之ニ付テモ豫メ準備シ置クコト又右ニ付必要ニ應シ當該地ノ外國領事ニ保護ヲ依頼スル場合モ豫メ考慮シ置クノ要アルヘシ以上各點殊ニ四ノ(ロ)、(ハ)、(ニ)等ハ尙早ニ外部ニ漏洩スル時ハ徒ニ人心ノ動搖ヲ生セシムル事トナルヘキニ付之カ準備

上海 2月22日後發
本省 2月22日後着

第五九號

聯盟及熱河問題ニ關聯シ當地支那紙ハ連日大々的ニ報道シ中ニハ義勇軍ノ錦州克服ト云フカ如キ圖ニ乘リタル特電サヘ有ル外例ノ如ク當地全國商會聯合會及市商會等ノ四團體ハ聯盟宛ニ其ノ公正ナル制裁ヲ感佩スル旨打電シ又二十日全國商會聯合會ハ各地商會宛ニ政府ノ擁護、飛行機ノ購入、義勇軍ノ援助及日貨抵制繼續ノ通電ヲ發シ其他總工會等モ激勵通電ヲ發セルヤニテ紙上ヲ賑ハシ居ルモ表面平靜ニテ市内ニハ別ニ排日傳單又ハ標語等ノ貼出サレタルモノ無ク除奸團一味ノ爆彈投擲ハ最近跡ヲ絶チ支商取扱ノ日貨ニ對スル抗日會ノ抑留等モ過去數箇月間皆無ナルノミナラス邦人ニ對スル暴行迫害等ノ具體的事故(最近邦人紡績工場使用支那人ヲ公安局ニテ拉致シ又邦船不法臨檢等ノ事例ニ、三有ルモ時局ト別ニ關係無シ)無ク當地支那官憲ハ當館及我海軍側トモ友好的接觸ヲ保チ地方治安維持ニ努メ居レリ尤モ民間ニハ例ノ通聯盟脱退後起ル可キコトアル可キ事態ニ關シ各種ノ流言流布セラレ爲ニ邦人中多少不安ノ念ニ驅

ニ付テハ細心ノ注意ヲ以テ各地ノ狀況ニ應シ可然措置スルト共ニ必要以外ノ事ハ當分嚴秘トシ内密ニ手配スル事特ニ緊要ナリ

本電ハ前記時局處理方針案ト大體同趣旨ナルカ右ハ在支各館ニ行渡リ居ラサルヤニ認メラルル一方今や該案ニ基キ諸般ノ準備ヲ整ヘ置クヘキ時期ニ達セリト思考セルニ付重複ヲ厭ハス電報スルト共ニ之ヲ各公館ニ轉電シ置ケル次第ナリ爲念

廣東ヨリ香港ヘ、漢口ヨリ長沙、宜昌ヘ、青島ヨリ坊子ヘ、濟南ヨリ張店、博山ヘ轉電又ハ轉報アリタシ
北平、天津、濟南、青島、漢口、南京、廣東、厦門、福州、汕頭、九江、蕪湖、蘇州、芝罘、滿ヘ轉電シ、上海ヘ轉報セリ

編注 『日本外交文書』滿州事變第三卷、六七四頁。

600 昭和8年2月22日

在上海石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

日貨抑留および邦人への暴行など排日運動皆無の状況について

ラレ居ル者有ルニ付二十日邦人有力者ノ外當地陸海軍武官等ヲ當館ニ招致シ情報交換旁々人心安定並ニ邦人側ノ越軌行動取締等ニ付協議セルカ當地邦人トシテハ昨年ノ上海事件ノ影響モ有リ極力當地ニ於ケル事件ノ發生ヲ避ケンコトヲ希望シ居レリ我方ヨリ支那側ヲ挑發スルカ如キ言動ニ出ツル者無カル可シト認メラル

支ヘ轉報シ、錦州、北平、天津、青島、濟南、漢口、九江、南京、蕪湖、蘇州、福州、厦門、汕頭、廣東ヘ轉電セリ
廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ

601 昭和8年2月24日

在廣東吉田總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

在留邦人保護に関する廣東市長との意見交換について

廣東 2月24日後發
本省 2月24日後着

第一一五號

在支公使發閣下宛電報第一〇四號ニ關シ
二十四日午後市長劉紀文ヲ往訪熱河問題ニ關聯シ時局柄警

戒ヲ要スト認メラルル處諸新聞等ノ激越ナル論調ニ刺戟セラレ民衆ノ越軌の行動ヲ見ルカ如キコトアルニ於テハ遺憾ナルヲ以テ充分ニ取締相成度ク當方ニ於テハ居留民ヲ戒シメ決シテ挑發の行動ニ出テシムルカ如キ事無キ様注意ス可キニ付貴方ニ於テモ協調ノ精神ヲ以テ嚴重取締ラレ度キ旨申入レタル處市長ハ貴國ノ行動ニ對スル中國民衆ノ反動ハ貴國ノ態度強硬ナレハ強硬ナルタケ其反動大ナル次第第二シテ熱河ニシテ侵サルルニ於テハ民衆ニ對スル之カ反射ハ頗ル大ナルモノアル可シト想像セララルル處自分ハ素ヨリ協調ノ精神ヲ以テ國際法上認メラレタル範圍内ノ貴國民保護ニ付テハ力ヲ盡ス可シト答ヘタルニ付本官ハ市長ト本官トカ互ニ協調シテ事ニ當ルニ於テハ凡テ圓滿ニ進行ス可ク本官ハ市長ノ言葉ヲ満足トスル旨念ヲ押シ置キタリ續イテ時局談話ニ移リ市長ハ自分一己ノ私見ナリト前提シ

(2) 日支ノ不和ハ延イテ東洋ノミナラス世界ノ不安ヲ醸成スルモノナルヲ以テ兩國ハ速ニ常道ニ復スル必要アル處一方カ餘リニ強ク他方カ餘リニ弱キ時ハ兩國間ニ平和永續セサル可ク兩々相俟ツカ如キ權衡ヲ保ツ事肝要ナリト信ス當面ノ時局ニ付テモ自分ハ何等外交手段ニ依リ(敢テ武力行動ヲ

南京 2月25日後發
本省 2月25日後着

第一二八號

二十六日ノ民聲報ニ依レハ二十四日ノ立法院會議ニ於テ衛挺生等十一名ノ委員ヨリ臨時動議トシテ聯盟カ日本ニ對シ規約第十六條ヲ適用セントスルニ當リ支那カ尙日本ト商業上ノ取引ヲ爲スハ甚タ聯盟ノ同情ヲ失フ次第ニ付至急駐日公使ヲ召還シ「ボイコット」政策ヲ實行スル様立法院ヨリ政治會議ニ建議方提議シタル處ニ、三ノ委員ハ異議ヲ唱ヘタルモ孫科ヲ始メ孫科ニ接近セル各委員及其他大部分ノ委員ハ日本カ宣戰セスシテ戰爭シ居ル以上最早忍耐シ得ス速ニ對日絶交ヲ實行シ之ニ依リ聯盟ノ耳目ヲ一新スルト共ニ國民ノ敵愾心ヲ喚起スル必要アリ尤モ絶交後ハ日本側ハ更ニ武力手段ヲ採用スヘキモ支那側モ公然日貨抵制運動ヲ起シ之ニ依リ或ハ日本ノ最後ノ反省ヲ促シ得ルヤモ知レストノ意見ニテ長時間討論ノ末前記提議ニ一致贊成シ其結果ハ政治會議ニ建議スルコトトナシタル趣ナリ

尙新聞ニ依レハ在壽府支那代表ハ二十四日國民政府ニ對シ至急駐日公使ノ召還方電請越セル由

口ニセサリキ)解決シ得可シト信シ居ルモノナリト語りタルニ付本官ハ日本ハ貴國特ニ民國革命ニ對シ鮮カラサル援助ヲ與ヘ特ニ大養、頭山、寺尾其他ノ人々ノ孫文ニ與ヘタル援助ノ如キ他ノ如何ナル國モ見出シ得サル筋合ノモノナルニモ拘ハラス今や兩國カ斯克ノ如キ狀態ニ立至レルハ甚タ遺憾ニ堪ヘサル次第ナル旨述ヘタル處市長ハ自分ハ永年孫文ニ接近シ且日本ニモ在留シ其間ノ消息ハ好ク了解シ居レルモ今や孫文犬養共ニ亡ク夫々ノ後繼者間ニハ充分ナル意思ノ疏通ヲ缺クノ感アリ頗ル遺憾ニ堪ヘサルモ必スや兩國ノ係争ハ遠カラス圓滿ナル解決ヲ得可キモノナリト思考スト答ヘタリ

支、北平、天津、奉天、滿、青島、濟南、南京、福州、漢口、汕頭 厦門ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

602 昭和8年2月25日 在南京上村總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

對日絶交および日貨ボイコットなど立法院における對日強硬論議に関する新聞報道について

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支、北平、滿、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州ヘ轉電セリ

603 昭和8年2月28日 在厦門三浦領事より
内田外務大臣宛(電報)

国交断絶など事態急変の際の在留邦人引揚げ措置につき意見具申

第七三號(極秘)
本官發臺灣總督宛電報

厦門 2月28日後發
本省 3月1日前着

第八號

聯盟及熱河問題ノ當地方ニ及ホセル影響ハ未タ顯著ナルモノ無ク市面ハ引續キ平靜ヲ保チ居ル處同問題今後ノ成行如何ニ依リテハ或ル種ノ國交断絶ノ如キ場合ニ立至リ當地ノ形勢モ急變スル無キヲ保セサルニ付目下政府ノ訓令ニ基キ萬一ノ場合ノ手配ヲ極秘裡ニ進メツツアル次第ナリ然ルニ御承知ノ適當方面ニハ内地人三百八十人、臺灣人登録者約

八千人、未登録者約二千人有り且ツ又單ニ排日ノ激烈ナル場合又ハ共產軍來襲ノ如キ場合トハ異リ土着臺灣人ト雖モ縁故ヲ頼リテ殘留スル事困難ナル事情有ル可キ處最惡ノ場合ニハ此等多數ノ在留民ヲ最短期間ニ引揚ケシムル必要有之ニ付テハ斯カル場合當方ヨリ電報次第收容力大ナル船舶數隻(例ヘハ内台航路船ノ如キモノ)ヲ迅速ニ回航セシメラル様御手配置相煩ハシ度シ尙又引揚ケ者ノ一時收容方ニ付テモ同様御配慮置願度シ本件ニ付テハ何レ政府ヨリモ何分申進ノ次第有之可キ事ト存セラルル處細目並機宜ノ打合セハ直接行フノ外無シト認メラル

尙本電ノ内容公開ハ直ニ當地ニ反響シ意外ノ波瀾ヲ惹起スル虞有ルニ付申ス迄モ無キ事乍ラ本件嚴秘取扱方特ニ御配慮煩ハシ度シ

大臣、支、南京、北平、福州、廣東、汕頭へ轉電セリ

604 昭和8年3月10日 在上海石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

原産國標記条例の修正に関する邦人当業者の運動について

上海 3月10日後発
本省 3月10日後着

第八八號
當地邦商側ニ於テ原産國表記條例ハ排日運動ニ惡用セラルルヲ恐レ出來得ルタケ其實施延期ヲ切望スルト共ニ實施ノ已ム無キニ至ル場合ハセメテ原産國名ヲ表記スル文字ヲ漢字ニ限ルコト無ク英字ニテモ可ナル様(英語ニ通セサル民衆ノ間ニ賣捌クニ便利)訂正方希望シ居リ右交渉方豫テ當館ニ申出テ居ル次第ナルカ一方右ニ付外國商社側ノ贊同ヲ得ル爲英米等ノ商業會議所側ニ「アプロウチ」シ居ル處英國商業會議所側ニテハ本條例ヲ來年一月迄延期スルコト及原産國名ニ英字使用ヲ認ムルコトノ二點ニ付支那側ニ交渉スル様英國官憲ニ運動方考慮中ナル趣ナリ

支へ轉報シ北平、天津、漢口、南京、青島、廣東へ轉電セリ

605 昭和8年3月11日 在漢口清水(八百一)總領事より
内田外務大臣宛(電報)

日清汽船買弁の暗殺事件に伴う排日運動激化の状況について

第七八號

漢口 3月11日後発
本省 3月11日後着

本月四日往電第六四號楊暗殺事件發生スルヤ折柄我軍熱河攻略中ナリシヨリ當地一般支那人ハ右ハ排日鐵血團ノ行爲ト爲シ謠言百出シ日本人ニ關係有ル支那人ハ何レモ警戒シ買辦ノ多クハ六日より出勤セス商人ハ日本人トノ取引ヲ見合スニ至リ八日頃ニハ楊ノ暗殺ハ排日團ノ所爲ニ非サルコト支那人間ニ知レ亘リタルモ流言蜚語依然跡ヲ斷タス九日ニハ當地紗業公會ハ日本綿糸布ヲ取扱ハサルコトヲ決議シタル旨ノ情報アリ十日ニハ舊英租界及日本租界ニテ石炭ヲ取扱ヒ居ル支那商人(滿洲事件以來全然日本炭ヲ取扱ヒ居ラサル者)白晝自動車ニテ何者カニ拉致サレ行方不明トナリタル事件發生セリ(私怨ノ爲ナリト云ハル)其間本官ハ六日八日ノ二回ニ亘リ當地警備司令ニ對シ謠言及暴行嚴重取締方懇談シ先方ニ於テ一應承諾セルモ未タ徹底の取締ヲ見ルニ至ラス爲ニ邦人ノ取引ハ六日以來殆ト休止ノ狀態ニ在リ當地黨部ハ未タ動キ居ラサルモ一部職業排日家及無賴漢ハ楊ノ事件ヲ鐵血團ノ行爲ノ如クニ言ヒ觸ラスト共ニ種々流

言ヲ放チ排日貨ヲ行ヒ若ハ私利ヲ計ラントシ他方綿糸布石炭商等邦商ト反對ノ立場ニ在ル者モ楊事件ヲ利用セント試ミツツアルニ非スヤト疑ハルル節有リ斯クシテ楊事件ハ不知不識ノ間ニ排日貨運動ト化スルニ至ラスヤノ懸念アリ警戒中例ノ通り轉電セリ

606 昭和8年3月18日 在漢口清水總領事より
内田外務大臣宛(電報)

在留邦人に直接危害を加えず邦商に關係する中国人を標的とする今回の排日運動の巧妙な展開について

漢口 3月18日後発
本省 3月18日後着

第七七號

往電第八一號ニ關シ
當地排日貨運動ハ既報ノ通ニテ未タ緩和ノ曙光見エス本運動ノ裏面ニハ當地黨部及蔣介石ノ總司令部ノ手モ伸ヒ居ルニ非スヤト疑ハルル節最近ニ現レ來レリ本官ハ警備司令、公安局長、省主席等ヲ訪ヒ取締方要求中

今回ノ排日貨運動ハ極メテ巧妙ニシテ糾察隊ヲ使ハス日支人ノ貨物ニ手ヲ觸レス只謠言ト得體ノ知レサル脅迫狀トニ依リ日人關係ノ支那人ニ恐怖心ヲ抱カシメ以テ日貨ノ取引日人ヘノ土貨販賣及日人ノ營業等ヲ妨碍セントスル遣方ニシテ日本側ヨリ抗議アルモ何トカ言拔ノ出來ル様ニ注意シ居レルト他方ニハ當地支那側關係當局ニ夏斗寅派(警備司令モ之ニ屬ス)ト蔣介石直系派(總司令部員、市長、公安局長)トアリテ相軋シ後者ハ前者ヲ排斥セントシ常ニ其ノ機會ヲ狙ヒ居ルコトハ本件ノ解決ヲ一層困難ナラシムル一原因ト思料セラレ

例ノ通り轉電セリ

607 昭和8年3月23日 在南京上村總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

邦人雇用中国人を標的とした排日運動の悪化
に關し中国側關係当局に注意喚起について

南京 3月23日後発
本省 3月23日後着

第一九三號

支、滿、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

608 昭和8年3月24日 在漢口清水總領事より
内田外務大臣宛(電報)

邦商と關係ある中国商への事件多発のため邦
商・中国商間取引途絶の状況について

漢口 3月24日後発
本省 3月24日後着

第九五號

貴電第一四號ニ關シ

日本染料ヲ取扱ヒ居ル支那商二十日夕刻「ギヤング」團(救國團ナルヤ無賴漢ナルヤ未タ不明)ノ爲其ノ店頭ヨリ自動車ニテ拉致サレタル事件發生シ爲ニ一時沈靜ノ傾向ニ在リタル人心ハ再ヒ極度ニ怯ヘ一般支那商ハ邦商ニ寄付カサルノミナラス邦人ノ電話ヲモ受付ケサル有様ニテ支那人取引ハ益々困難トナリ玆數日來全然杜絶ノ狀態ニ在リ
本官ハ本件ニ關シ支那側當局ヲ訪ヒ種々交渉中ナルカ往電

熱河ノ戰事終了ニ近付キタル頃ヨリ支那新聞ハ連日支那軍ノ大勝ヲ報シ居ル次第ハ累次電報ノ通ナルカ右大勝ノ報道ニ刺戟セラレタル爲カ最近當地ニ於ケル對日空氣頓ニ險惡トナリ十一日ニハ日清汽船備支那人逮捕セラレ(十三日釋放)次テ日本人ニ教授シツツアリタル支那語教師二名ノ逮捕ヲ見(中一名既ニ釋放)更ニ廿一日下關三星洋行備支那人一名(廿二日釋放)及日本軍艦へ食糧賣込ノ支那人三名ノ逮捕(以上何レモ市黨部員又ハ密偵ニ逮捕セラレ)ヲ見ルニ至リ邦人使用ノ支那人間ニ恐慌ヲ起シタルニ依リ本官ハ廿二日憲兵司令谷正倫又廿三日ニハ警察廳長陳焯ト會見シ右實情ヲ説明ノ上其ノ注意ヲ喚起スルト共ニ邦人使用ノ支那人ニ對シテハ特ニ保護ヲ厚フシ不祥事ノ發生ヲ未然ニ防ク様本官ト協力アリ度キ旨申入レ兩人トモ最善ヲ盡ス可キ旨約シタリ

尙廿三日本官徐外交次長ト會談ノ際右事實ヲ指摘シ國民政府ノ首都ニ於テ法律上ノ權限無キ私人ノ團體カ濫リニ市民ヲ逮捕監禁スルカ如キハ國民ノ恥辱ニ非スヤト其ノ注意ヲ喚起シタルニ徐ハ驚キタル様子ニテ早速取調へ適當ノ方法ヲ講ス可キ旨語り居タリ右御參考迄

第八七號ノ次第モアリ旁未タ緩和ヲ見サル次第ナリ
大安紡績ニ付テハ二十二日警備司令ヲ往訪シ懇談ノ結果同司令ヨリ書面ヲ以テ關係商人ニ對シ同會社ニ原綿ヲ供給シ且ツ其ノ製品ヲ購買ス可シト通告スルカ如キハ具合惡シキニ付同會社ノ營業維持方ニ對シ何等裏面ヨリ援助ヲ與フヘシト約シタリ然ルニ前顯染料商拉致事件以來支那關係商トノ聯絡ノ杜絶ニ依リ商談出來ス二十六日迄現狀ノ儘推移スルニ於テハ二十七日ヨリ休業ノ外無キ實狀ナルニ付目下打開策考究中ナリ

日華製油ノ休業ハ市場原料薄ヨリ來レル豫定ノ行動ニ過キス往電第七八號所報ノ石炭商ハ身代金三、四千元ヲ支拂ヒタル上數日前釋放セラレタルカ右ハ救國團ノ名ニ隱レタル無賴漢一味ノ仕業ト認メラル
例ノ通り轉電セリ

609 昭和8年3月28日 在廣東吉田總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

對日關係への配慮による日貨取扱者の死刑延期について

広東 3月28日後発
本省 3月28日後着

第一九六號

廿二日來當地一部漢字紙ハ廣東民衆救國會カ三月廿一日ノ執行委員會議ニ於テ頃來日貨取扱ノ廉ニテ審理中ノ同會鑑定委員何榕ヲ銃殺ニ處スヘキ事ヲ決議シ黨部ヲ介シ軍政當局ニ死刑執行方要請シタル趣及右死刑ハ本月廿五日又ハ廿七日執行ス可カリシ旨斷續の二反駁シ居リ成行注視中ノ處當館謀報者ノ情報ニ依レハ目下來粵中ノ唐紹儀ハ何榕ヲ死刑ニ處スルニ於テハ日支關係ノ緊張セル今日必然日本側ノ感情ヲ更ニ惡化セシメ延イテハ日支開戦ヲ見ストモ計ラレサル可シトテ極力反對シ居ル爲彼ノ死刑ハ當分執行延期ト爲レル由御參考迄

支、北平、南京、漢口、天津、濟南、福州、汕頭、滿、奉天へ轉電シ香港へ轉報セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

610 昭和8年3月28日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

ントテ公安局カ積極的ニ關與スルカ如キコト絶對ニ無シト言ヘリ

三、今回ノ日貨排斥ハ支那商人ヲ異常ニ恐怖セシメ居ルコト事實ニシテ又綿布商、石炭商材木商及海產物商其ノ他ノ代表者カ公安局側ヨリ日貨取扱停止ノ勸告ヲ受ケタリトノ情報アリ前記省政府側ノ言明ハ俄ニ信シ難キモ籍民阿片煙館及賭博業者ト聯絡シ多額ノ賄賂ヲ收受シ居ル公安局各隊長達カ公安局長窘メニ企テ居ルモノナリヤニ推測セラルル節モアリ引續キ取調中ナルモ廿八日不取敢外交科長ニ對シ巡警ノ關與シ居ルコトハ事實ナルコトヲ指摘シ斯ノ如キハ何レノ地ニモ例無キ所ニシテ日支間ノ感情ヲ惡化セシムルモノナルニ付右阻止セラルヘキ旨申入レ置キタリ

四、今回ノ日貨排斥ハ極メテ惡性ノモノノ樣觀測セラレ事態憂慮スヘキモノアリ又公安局ノ關與ニシテ事實ナラストスルモ一旦斯ノ如キ恐怖狀態現出セル以上回復ニハ相當ノ時間ヲ要スヘシ右不取敢

支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、厦門へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

公安局長主導による日貨排斥実施の風説とそ
の影響について

福州 3月28日後発
本省 3月28日後着

第一〇二號

二十五日以來市内ニ公安局長ノ直接ノ指導ニ依リ日貨排斥行ハレ解人夫モ日貨ノ運搬ヲ拒絶スヘシトノ謠言アリ且實際ニ於テ公安局巡警カ廿六日以來各商店ニ對シ廿八日迄ニ日貨ヲ處分スヘク爾後之ヲ輸入販賣スルニ於テハ重刑ニ處スヘシト觸廻リ居ルラシク支那商人側ハ恐怖ノ餘リ續々契約ヲ取消シ且既ニ入港セル積荷ノ引受迄拒絶シ來リ日本商人側ニテ手持品ノ處分ニ窮シ海產物ニシテ腐敗ノ虞アルモノハ直ニ仕出地ニ返送ノ手續ヲ執ル等善後策ヲ講シツツアリ

三、本件謠言ニ關シ廿七日省政府外交科長ノ辯明ヲ求メタル處民衆救國會ノ者數名公安局長ヲ訪問シ日貨排斥ニ付援助ヲ求メタルハ事實ナルモ此ノ際公安局長ハ之ヲ拒絶スルコトモ出來ス好イ加減ニ挨拶シタリ素ヨリ之ヲ獎勵シタルモノニアラス謠言ハ職業的排日屋ノ喧傳スル所ナラ

611 昭和8年3月29日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

日貨排斥への省政府および公安局の関与について

福州 3月29日後発
本省 3月29日後着

第一〇四號

往電第一〇二號ニ關シ

這同ノ日貨排斥ニ省政府及公安局カ直接干與シ居ルコト略明瞭トナレリ今尙省政府ハ本官ニ對シ事實ヲ糊塗シ居ルモ確實ナル情報ニ依レハ二十五日以來公安局長カ各商人ノミナラス端舟人夫迄モ招致シ日貨排斥ヲ爲スヘキコトヲ説示シ之ニ違反スルトキハ重刑ニ處セラルルモ異議無シトノ誓約書ヲ徴シタルモノナルコト確實ナリ詳細ノ事情及之カ對策ニ付テハ更ニ電報スヘキモ不取敢

支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、厦門へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

612 昭和8年3月29日 在上海石射總領事より
内田外務大臣宛

原産國標記条例を批判する新聞報道について

公信第三四八號

(4月5日接受)

昭和八年三月二十九日

在上海

總領事 石射 猪太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

原産國標記條例ニ對スル「ウツドヘツド」論評

ニ關スル件

本年八月一日ヨリ實施セラルヘキ輸入外國貨物原産國標記條例ハ各國製造及貿易業者ヨリ反對ヲ受ケ居レルハ屢次及報告置キタル通ノ處三月二十七日「ウツドヘツド」ハ「イブニングポスト」紙上「本條例及條例細則ノ實施ハ甚タシク費用及手數ヲ要スルカ又ハ不可能(既製品ニ付實施不可能ナノハ勿論テアル又小サナ「ペン」先キニ條例通り加奈陀製又ハ南亞弗利加製ト標記スルニハ如何シタラ良イテアラウカ、眼鏡ヤ寫眞機ノ「レンズ」ニモ條例ヲ實施スル積リテアラウカ」ト多數例ヲ舉ケテ皮肉リ)テアル對日「ボイコット」委員ノ不都合且「イリーガル」ナ行動ヲ續行セシムル爲ニ更ニ本條例ノ如キ新武器ヲ追加シ其ノ爲ニ支那ノ

右新聞切抜別添報告ス委細切抜ニヨリ御了知相成度

本信寫送付先 堀内書記官 北平 南京

613 昭和8年3月31日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

今次日貨排斥の裏面に關する林知淵の談話について

福州 3月31日後発
本省 3月31日後着

第一〇八號(極秘扱)

今回ノ日貨排斥ノ動機ヲ探リ又出來得ル限り之ヲ緩和セシムル目的ヲ以テ豫テ懸念ナル林知淵ニ極秘裡ニ人ヲ派シ本官ノ私信ヲ手交セシメタル處林ハ日本人ノ生命及身体ニ對シテ危害ヲ加ヘサルコトハ省政府ニテ特ニ注意シ居ルニ付心配無キモ日貨排斥ノ點ハ到底自分ノ力ニテハ如何トモシ難ク(大阪商船船主ノ點ニ付本官ノ要求ヲ實現セシムルニ付テハ自信無キニ依リ諒察アリ度シト語ル)又今回ノ日貨排斥ハ最近中央黨部ヨリ命令アリ公安局長ノ活躍トナリタルモノナルコト事實ナリ(省政府ノ關與ノ點ハ曖昧ニセリ)

輸入貿易全体ヲ無茶苦茶ニスル必要ハ一体何處ニアルノテアラウカ」ト本條例並ニ細則ニ痛撃ヲ加ヘ更ニ次ノ如ク結ヘリ「外國製造及貿易業者ハ日本政府カ正式且強硬ニ支那政府ニ對シ右條例ノ即時徹廢ヲ要求スルコトヲ歡迎スル他ノ諸外國ノ採ルヘキ最善ノ方法ハ支那製品ニ對シ輸入國ノ文字ヲ本條例通りニ標記セシムルニアル斯クスレハ英國一國ノミテ支那ヲシテ其ノ非ヲ覺ラシメ得ルテアラウ即支那側ハ「シンカポール」宛ノモノハ「マレイ」語テ支那製ト標記シナケレハナラヌ印度宛ハ「ヒンドスタン」語又ハ「ビルマ」語、南亞弗利加宛ハ「オランダ」語「加奈陀」宛ハ英語及佛語テ標記シナケレハナラヌカラテアル」尙三月二十九日「タイムス」モ「本條例細則ハ甚タ奇妙ナモノテ立案者ハ一体支那ノ輸入貿易ヲ全然杜絶セシムル積リナノカ或ハ又全世界ニ支那語使用ヲ勸メル積リナノカト考ヘサセラレル程タ」ト皮肉リタル后二、三實例ヲ舉ケテ製造過程變更等實施ニ伴フ不便困難從テ本年八月一日ヨリノ實施ハ不可能ナルコトヲ説キ結論トシテ「支那政府ハソノ非ヲ覺リ本條例ヲ徹同シヨリ實行シ易ク且便利ナル規則ヲ考慮スルコトカ適當テアル」ト述ヘ居レリ

現在省黨部ニゴタゴタアリテ足並亂レ居ルモ右紛擾解決後ハ更ニ一層激烈ナル排貨運動トナルヘシト言ヘル趣ナリ中央黨部ヨリ指令アリタリトノ點ハ眞實ナルヤ否ヤハ本官トシテハ尙疑ヲ有スルモ不取敢支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、厦門ヘ轉電セリ支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

614 昭和8年4月5日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

救国運動の越軌行動は許さない旨の公安局長

布告について

別電 四月五日発在福州守屋總領事より内田外務大臣宛第一一九號
右布告文

福州 4月5日後発
本省 4月5日後着

第一一八號

「其ノ後巡警ノ日貨排斥干與猶ホ熾マス又三日ニハ不良學生數名臺灣籍ヲ有スル福州人海產物商ニ闖入シ商品ヲ搬出

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

(別電)

福州 4月5日後発
本省 4月5日後着

第一一九號

救國運動ハ沈着ニシテ規律アル行動ヲ執リテコソ有效ニシテ弊害ヲ發セサルモノナル處近來不逞ノ徒輩カ愛國運動ニ名ヲ藉リ越軌ノ行爲アルハ地方秩序ヲ擾亂スルノミナラス自衛禦侮ノ陣容ヲ破壞スルモノナリ本局長ハ治安維持ノ責任上各界人士カ一時ノ血氣ニ逸リ紛擾ヲ起スカ如キ事無キ様剴切ニ勸告ス若シ故意ニ違反スル者ヲ發見セハ直ニ逮捕處分シ假借セス

支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、厦門ニ轉電セリ
支ヨリ上海ニ轉報アリ度シ

615 昭和8年4月8日 内田外務大臣より
在福州守屋總領事宛(電報)

台灣籍民に対する圧迫は台灣在留中国人の保

シタル事件アリ(學生ハ拘留ニ處セラレ商品ハ公安分局ニテ一時保管ノ後大部分被害者ニ返還セラレ無事解決)本官ニ於テハ其ノ都度省政府ノ注意ヲ喚起シ居ル次第ナルカ右ニ對シ公安局長ハ昨四日附ニテ救國運動ハ規律アルヘシトノ趣旨ノ別電第一一九號ノ如キ布告ヲ發シ之ヲ新聞ニモ掲載セシメタリ五日省政府係官ヨリ右ノ趣旨電話ヲ以テ通報シ來レリ尙本五日日貨排斥ニ關係シ居ル閩侯縣商會執行委員林椿函ナル者五日館員ニ對シ公安局ハ今回ノ排日貨運動ニ直接干與セルヲ後悔シ居ル模様ニテ既ニ三月三十一日中ニ往電第一〇六號支那人ノ誓約書ヲ全部縣商會ニ引渡し之ト引換ニ右誓約書ハ警察カ強制的ニ書カセタルモノニ非ス民衆ヨリ自發的ニ縣商會ニ提出セルモノナリトノ趣旨ヲ附記セル受領證ヲ徴シタリト内話セル趣ナリ

ニ前掲布告ニ付省政府ヨリ恰モ日貨排斥援助ノ目的ヲ以テ發セラレタルヤニ本官ニ通報シ來レルモ本件ハ日本人ノ身体財産ニ對スル直接行動ヲ阻止スル丈ケノ目的ヲ有スルニ過キサルコト疑無ク林ノ内話ノ事實モ俄ニ信シ難シ引續キ成行注視中

支、北平、漢口、南京、廣東、汕頭、厦門へ轉電セリ

護に影響するため中止を嚴重申入れ方訓令

別電 四月八日發内田外務大臣より在福州守屋總領

事宛第一九號

阿片および海產物取扱いの台灣籍民に対し家屋借用を禁止する福州公安局の密命について

本省 4月8日後9時20分發

第一八號

台灣總督府ヨリ別電第一九號ノ通電報アリタル処本件事実トセハ帝國臣民ニ對スル不法侵害ニシテ放置シ得サル所ナルヲ以テ本件ニ關スル確証ヲ得ラレタル上ハ支那側ニ對シ台灣ニ於テハ數万ノ支那人カ帝國官憲ノ保護ノ下ニ生命財産ノ安全ヲ享受シ平穩ニ通商ニ從事シ居ルノ事実ヲ指摘シ貴地ニ於テ籍民ノ正業ハ勿論煙館ト雖モ多年ノ仕來リト成リ居レルモノヲ格別ノ理由無ク俄カニ禁遏シテ生計ヲ奪フカ如キ非情理ナル圧迫ヲ為シテ停止スル所ナクンハ遂ニハ台灣ニ於テ在留支那人ニ對スル復仇ヲ激發スルノ虞アルノミナラス日本側トシテモ勢ヒ臺灣在留支那人ノ保護ニ任シ得サルニ至ルコト無キヲ保セサルコトヲ說キ事端發生防止ノ見地ヨリスルモ台灣在留支那人五万ノ安危ニ鑑ミルモ公

安局ノ非理ヲ速カニ改ムルノ要アリトノ趣旨ヲ以テ往電第一七號ノ手配ト併行シテ嚴重申入レラレ先方ノ猛省ヲ促サレタシ

別電ト共ニ公使、南京、汕頭、厦門、廣東ニ轉電セリ

編注 『日本外交文書』滿州事變第三卷、七九三頁。

(別電)

本省 4月8日後9時40分發

第一九號

福州公安局竝ニ禁煙委員會ニ於テハ在留臺灣籍民阿片煙館又ハ海產物商ヲ經營スル者ニハ借家セシメサル旨決議シ各家主ニ對シテ左ノ如ク四月六日ヨリ實行スル様密令シタル模様ニシテ右ハ在留籍民阿片煙館營業者ニ壓迫ヲ加ヘントスルニ出テタルモノト思料セラル

一、四月六日以後ハ臺灣人ヲ居住セシメサルコト

二、現住者ニ對シテハ明渡シヲ要求スルコト

三、之ヲ實行セサルモノハ拘禁ス

四、臺灣人名義ノ借家(臺灣人名義ヲ以テ借家シ支那人ニ阿

片煙館ヲ營マシメツアルモノ多數アリ)ニシテ現住セサル者ハ之ヲ封鎖シ現住セルモノハ各阿片館毎ニ巡警ヲ配置シ出入支那人ハ之ヲ逮捕處罰ス

616

昭和8年4月12日

在中国堀内臨時代理公使より
内田外務大臣宛(電報)

原産國標記条例への英國側の対応について

上海 4月12日後発

本省 4月12日後着

第一九七號

往電第一八三號ニ關シ

十二日英國商務官「ビール」ノ館員ニ對スル談話左ノ通御參考迄

原産國標記條例ノ實施其モノニ對シ反對ハ困難ナリト認メラルル處英國側ニ於テハ不取敢標記ハ英文ニテモ可ナルコト並實施期日ヲ少クトモ來年一月一日迄延期スル様外交部ニ申入置キタルカ未タ何等同答ニ接セス尤モ今朝確カナル方面ヨリ聞ク所ニ依レハ國民政府ニ於テハ標記文字ハ支那語英語及佛語ノ三者中何レカニテ可ナルコトニ決定セル

一、茶其ノ他ノ臺灣向輸出ニ付テハ何等問題無ク豫定通り無事長沙丸ニ積込ヲ了シ同船ハ十六日出帆シタルカ中國商人ニ於テ引取りタル「ジャスミン」苗木ハ(原價一千圓賣値四千圓)四隻ノ小型艇(支那人所有)ニテ賣主タル日本人二名及其ノ使用人タル支那人一名附添ノ上税關波止場ヨリ密ニ馬尾方面ニ輸送ノ途中午前十一時頃公安局水巡隊(元ノ水上公安局)ノ巡警十餘名ノ爲ニ差押ヘラレ午後三時半頃福州市内福新街水巡隊分局ニ同行ヲ命セラレタル事件發生シ日本人ハ直ニ歸宅ヲ許サレタルモ支那人ハ其ノ儘留置セラルルニ至リタルヲ以テ直ニ水巡隊ニ對シ右貨物カ日本人ノ所有ナルコトヲ證明シ(事實ハ代金ノ七割ハ日本人ニテ受領濟)其ノ引渡及支那人ノ釋放ヲモ要求シタル處責任者不在ノ故ヲ以テ事件ノ解決ヲ延引セントスル模様アリシモ結局午後十時頃我方ノ要求通り貨物ヲ返還シ支那人ヲモ釋放シタリ

二、事件ハ排貨運動開始後幾何モ經過セサル今日白晝大ピラニ運搬シタル點ニ於テ多少不用意ノ點アリ又日本人力乗込ミ居タル爲水巡隊員ニ於テ金錢ヲ收受ノ上釋放スルト言フ彼等一流ノ妥協ヲ不可能ナラシメタル爲事件紛糾ス

趣ナルカ(閣下宛石射總領事發電報第一三五號參照)延期ノ點ニ關シテハ支那側ニ相當難色アル模様ナリ其他條例ノ詳細ナル點ニ關シテハ目下英國商業會議所ニ於テ委員會ヲ設ケ各項目ニ付其影響及利害關係ヲ研究中ニテ一週間後ニハ報告ニ接スル筈ナレハ右報告ヲ俟テ更ニ詳細修正方申入ルル考ナリ本件條例ニ對シ米國側ハ英國ニ比シ割合寛大ナル態度ヲ示シ居ル模様ナルカ今後ハ貴方トモ充分聯絡ノ上出來得ル丈ケ條例ノ修正及延期方取扱フコトト致度シ

北平、南京、天津、濟南、青島、漢口、廣東、福州、關東長官ニ轉電セリ

上海ニ轉報セリ

617

昭和8年4月16日

在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

公安局による運搬日貨押収事件発生について

福州 4月16日後発

本省 4月16日後着

第一三四號

往電第一三二號ニ關シ

ルニ至レルヤニ認メラルル節モアリ(約二週間前ニハ同様右苗木ヲ水巡隊ニ五百元ヲ收メタル結果無事上陸シ得タリ)折角緩和ノ曙光見エ來リタル際ノ出來事トテ其ノ影響甚タ懸念セラレ居ルモ今次排貨運動ニハ公安局長其ノ他ノ關與アリタルモ結局ノ處或ル程度迄緩和セラレ得ルコト事實ノ示ス所ナル次第アリ或ハ別段ノ影響無クシテ經過スルヤモ知レス尙公安局ニ於テ艇ノ船頭及前掲使用支那人ニ對シ制裁ヲ加ヘントスル氣勢無キモ買人タル支那人ハ姿ヲ晦シ居ル模様

冒頭往電ノ通轉電セリ

汕頭へ暗送セリ

618

昭和8年4月16日

在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

日貨排斥への抗議申入れは蔣光鼐福建省主席の会見回避により実施困難な状況について

福州 4月16日後発

本省 4月16日後着

第一三五號

往電第一二七號^{編註}末段ニ關シ

今次日貨排斥カ官憲ノ指導ニ依ルコト疑無キモ支那人側ヨリ誓約書其他ノ有形證據ヲ呈示スル者無ク省政府ハ本官累次ノ抗議ニ對シ外交科長ヲ通シ巡警關與ノ事實無シト辯明シ且ツ右事實ナレハ取締ル可シト應酬シ來リ居ル次第(尤モ市内ニハ其後右ノ事實一向目立タサルニ至レルコトハ累報ノ通)ナルカ往電第二三四號ノ事實ハ公安局ノ排貨指導ノ事實ニ對シ動カス可カラサル有形ノ證據ヲ提供セルモノナルニ付テハ此際直ニ貴電第一七號御訓令ノ趣旨ニ依リ警告ヲ蔣光鼐ニ與フルコトハ最モ適切有效ト認メ右手配中ナリ然ルニ十三日本官ニ於テ外交科長ノ來訪ヲ求メ十四日又ハ十五日蔣ト會見シ度キ旨申入レタルニ拘ラス病氣等ヲ理由トシテ今ニ會見期日ヲ通報シ來ラス十五日再度督促ニ對シテモ煮切ラサル返事ヲ爲シタル次第アリ十七日(月曜日)更ニ督促ヲ試ミ猶蔣ニ於テ本官トノ面會ヲ延期セントスル模様アルニ於テハ蔣以外ノ有力ナル委員ヲ指定シ同日直ニ之ヲ省政府ニ訪ヒ前記御訓令ノ趣旨ニ依リ警告ヲ與ヘタル上同一趣旨ノ蔣光鼐宛覺書ヲ之ニ手交スルヨリ外無シト考ヘ居レリ

事及台灣人驅逐策ニ關スル謠言カ鮮カラス我方ヲ刺戟^{刺戟}シ居ル次第ニ言及シ省政府主席ノ深甚ナル考慮ヲ求ムト言ヘル處林ハ一々之ヲ首肯シ且今日迄省政府ハ本總領事屢次要求ニ對シ必要ナル措置ヲ執リ來レリト辯明シ委細蔣光鼐ニ報告スヘシト附言セリ

ニ右會談後林ハ半時間位座ヲ外シタルカ右ハ蔣ニ委細報告ノ爲ト思ハレタリ而シテ辭去ニ際シ午後三時本官ヲ訪問シ度トノコトナリシヲ以テ諒承セル處定刻ニ豫テヨリ我方ト聯絡アル彼ノ友人ヲ通譯トシテ本官ヲ來訪シ省政府ニ於ケル談話ハ通譯ノ關係上英語ナリシ爲聞キ洩ラシタル點アルヤモ知レス更ニ繰返シテ御話ヲ承リ度ト述ヘタルニ依リ省政府ニ於テ語レル處ヲ敷衍シテ説明シタル上其後貴電第一七號末段ノ御趣旨ニ依リテ日支間親交ニ努力センコトヲモ德憑セリ林ハ日支互ノ誤解ヲ避クル爲從來ヨリモ頻繁ニ本官ト接觸シ度ト述ヘタリ

ニ本官ノ得タル印象ニ依レハ本官ノ今次日貨排斥ニ關聯シ省政府ニ注意ヲ喚起シ置キタル點ハ充分省政府ニ於テ考慮シ居リ大阪商船ノ解ノ問題モ蔣自身ノ命令ニ依リ外交科カ處理シタルモノナルコト判明セリ今後トモ日本人ノ生命財

冒頭往電ノ通轉電セリ
汕頭へ暗送セリ

編註 『日本外交文書』滿州事變第三卷、七九六頁。

619 昭和8年4月19日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

省主席と面会し得ず林知淵に日貨排斥に關し
抗議申入れについて

福州 4月19日前発
本省 4月19日前着

第一三六號

往電第一三五號ニ關シ

蔣ニ面會ヲ申入レタルモ差支ヘアリトテ會ハス已ムヲ得ス十八日省政府ヲ訪問ノコトニ打合セ同日午前十時蔣ニ面談ノ心組ミニテ往訪セル處蔣及秘書長タル李昌達トモニ不在ナリトテ林知淵外交科長陪席ノ下ニ本官ニ面接セリ依テ本官ハ蔣主席ニ面接スルヲ得サルヲ遺憾トスト述ヘタル後御訓令ノ御趣旨ヲ述ヘ特ニ公安局ノ干與、新聞ノ煽動的記

産ニ對シ暴力行爲丈ケハ省政府ニ於テ誠意ヲ以テ防止スル積リナルコト確實ト認メラル本官警告ノ反響ハ少クトモ數日ヲ經サレハ判明セサルヘキモ不取敢
冒頭往電ノ通り轉電暗送セリ

620 昭和8年4月19日 鈴木(格三郎)青島日本商工会議所會頭より
内田外務大臣宛

原産國標記条例の撤廃交渉方請願について

商工發第一五一〇號

輸入貨物原産國標記條例撤廃交渉方請願

昭和八年四月拾九日

青島日本商工会議所

會頭 鈴木 格三郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

肅 啓

滿洲、上海兩事變後ニ於ケル南京政府ノ對日態度ハ事變ノ眞因ヲ究メサルモノカ毫モ自己ノ非ヲ悟ル所ナク民意ニ反シテ更ニ露骨ナル排日的手段ヲ弄シ一層彼我ノ惡感情ヲ激成セントシツ、アルハ兩國ノ前途ニ對シ眞ニ憂慮ニ堪ヘサ

ルモノ有之候

過般南京政府ハ輸入貨物原産國標記條例ナルモノヲ公布シ最近ノ海關告示ヲ以テ右條例ノ實施ヲ明年一月一日ト決定セルカ今該條例ノ内容ヲ檢討スルニ該條例實施ノ目的ハ特ニ關稅徵收上ノ必要ニ出テタルモノニ非ス全ク排日貨ノ撤底ヲ期セシメントスルニアルコト明カニシテ且ツ其ノ標記方法タルヤ甚タ過酷タルノミナラス中ニハ殆ント不可能ヲ強ユルモノサヘアリ若シ斯ノ如キ不當措置ヲ此儘默過スルニ於テハ更ニ今後如何ナル難題續出スルヤモ計リ難ク或ハ在支内外人工場ノ製品ニモ此種條例ヲ強制シ輸入貨物ニ對スルト同様在支邦人工場製品ニモ壓迫ヲ加フルニ至ル惧レナシトセス本條例ノ實施ハ洵ニ我對支貿易上由々敷重大問題ナルト共ニ將來ニ惡例ヲ貽シ且ツ將來ノ在支企業上ニモ及ホス惡影響渺カラサルモノ有之ヘク思考セラル、ヲ以テ速カニ本條例ヲ撤廢セシムル様嚴重御交渉相願度此段請願候也

621

昭和8年4月22日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

日貨排斥への省府対応改善の兆候について

細自分ニ任サレ度シト言ヘリハ確ニ右反響ノ一ニシテ蔣光鼐ト諒解ノ上ノ事ト思ハレ局面打開上好都合ニシテ少クトモ臺灣人煙館ニ對シ公安局巡警ノ不當壓迫ノ如キ問題ハ彼ヲ利用シ有效ニ防止シ得ル見込

三、當地ノ事情ヲ基礎トシテ考察スルニ(イ)海産物、豆粕及電球材料等ハ土產品ナク又廉價ナル外國品モナキ次第アリ現在ノ「ストツク」ヲ使ヒ果シタル上ハ之ヲ日本ヨリ輸入スヘキコト必然ト認メラレ(現ニ官憲ノ目ヲ附ケ居ル電燈會社スラ秘ニ右註文ヲ發シタリ)又(ロ)日貨排斥ニ依リ打撃ヲ受クル支那大商人二三ニ止マラス此儘ニシテ推移セハ不景氣ハ益々深刻化スルコト亦必然ニシテ右ハ商人ノ永ク堪ヘ得ル所ニ非ス追々ハ支那商人側ヨリ政府ニ緩和方歎願スルニ至ルヘク又更ニ(ハ)今回ノ日貨排斥ハ表面ハ兎ニ角官憲及黨部等ニ於テ多額ノ手數料トモ罰金トモ付カサル金錢ヲ收受シ日貨ノ取扱ヲ許シ居ル例モアリ見様ニ依リテハ財政難ニ困難シツツアル政府力管下ノ公安局其他カ其費用ヲ捻出スル爲日貨排斥ヲ課稅ノ方法トシテ利用スルヲ默許シツツアルモノトモ解セラレ金ノ力ニテ或程度迄緩和シ得ル可能性アリ旁今次日貨排斥ハ之

福州 4月22日後発
本省 4月22日後着

第一四二號

日貨排斥其後ノ經過ヲ見ルニ官憲ノ干涉ハ福州市内ノミナラス地方村落ニモ相當徹底の二行ハレ居リ二十一日ニハ馬尾ニテ日本産人蔘ヲ密賣セル廉ニテ捉ヘラレタル一支那人ヲ市内公安局附近ノ例ノ檻(從前ヨリ見世物トシテ取付アリ)ニ一時間餘曝シ物トセル外新聞ハ連日自動救國會カ日貨取扱者ニ對シテ爲シタル裁判及制裁ノ内容ヲ詳細ニ報道シ居ル實狀ナレハ支那商人ハ今尙怖レテ日貨取引ヲ手控ヘツツアリ事態緩和ノ徵アリトハ言ヘ未タ樂觀シ難シ

三、本官カ御訓令ニ基キ十八日省府ニ對シテ爲シタル警告ハ必スシモ新シキ内容ノモノニ非ス排貨運動勃發以來屢本官ノ爲セル所ヲ嚴肅ナル形式ヲ以テ繰返シタルニ過キサルモノナレハ特ニ際立チタル反響ヲ期待シ難シト存スルモ一時本官トノ接觸ヲ避クル態度アリタル林知淵カ再ヒ我方トノ聯絡ニ當ルヘシト申出來リタルコト(十八日本官ヲ來訪セル際美○德○及逢○泰○事件ノ解決ニ言及セル處委

以上惡化セス日ヲ逐テ徐々ニ改善ノ途ヲ辿ルモノト本官ハ觀測ス卑見御參考迄
支、北平、南京、漢口、廣東、厦門へ轉電シ汕頭へ暗送セリ

622

昭和8年4月22日 在中国堀内臨時代理公使より
内田外務大臣宛(電報)

行政院など關係当局に對シ排日運動に關し注意喚起について

上海 4月22日後発
本省 4月22日後着
第二一七號

十九日以來本官南京滯在中行政院外交部及軍政部等各當局ニ對シ最近各地ニ於ケル陰險ナル排日運動ノ實情ヲ指摘シ貴電合第七七八號ノ御趣旨ヲ含ミ地方官憲ノ深甚ナル注意喚起ノ要アル旨ヲ說示シ置キタルカ陳儀ニ對シテハ特ニ漢口福州蕪湖等各地軍憲カ排日ヲ援助シ居ル點ニ付注意シタル處(漢口發閣下宛電報第二二八號參照)陳儀ハ各地軍憲ニ對シテハ日本側ト事ヲ醸ササル様充分注意シアレハ武漢總司令部ニ左様ノ事アリトハ思ハレサルモ更ニ充分注意スヘ

シト述へ居タリ
北平、天津、青島、南京、漢口、福州、廣東へ轉電シ上海
へ轉報セリ

623 昭和8年5月3日 在漢口清水總領事より
内田外務大臣宛(電報)

排日団の暴力行為に對する警備司令部の嚴重
取締振りについて

漢口 5月3日後発
本省 5月4日後着

第一四〇號
貴電第二三號ニ關シ

泰安續ノ願出ハ貴見ノ通四月十九日以前ノ事態險惡ナリシ
時ノ情報ニ基クモノナリ

最近當地排日狀況ニ付往電第一二八號報告ノ通四月十九日
頃ヨリ支那官憲側ニ於テ排日團ノ暴力行為ノ取締ヲ始メ警
備司令部ハ愛國ノ美名ノ下ニ私腹ヲ肥ヤサントシタル者二
名ヲ二十一日逮捕直ニ銃殺シ(往電第一二三號參照)更ニ同
日附ヲ以テ右同様ノ行為ヲ爲ス者ノ嚴重取締方ヲ關係官憲

散期ナルカ現ニ輸出ニアリテハ日本内地不況ニシテ多クノ
輸出品ハ値段引合ハス輸入ニアリテハ當地一般ニ不況ニシ
テ日本品ノミナラス外國品モ賣行惡シク殊ニ排日時期ニハ
一般ニ日本品ノ價格騰貴スルヲ普通トスルモ今回ハ却テ價
格ノ下落ヲ示シ居ル狀態ナリ從テ輸出品ハ日本側ニ於テ或
二三ノ商品ヲ除ク外ハ買進マシ輸入品ハ支商側ニ於テ買氣
勢キ等ノ事情モアリ益商取引ノ復舊ヲ遲延セシメ居リ旁輸
出入取引ノ舊態ニ復スル迄ニハ尙相當ノ時日ヲ要スル見込
ニシテ當地地方ノ輸出入期タル七月ニ入り輸出品出廻リ來ラ
ハ支商ハ之カ賣却ヲ餘儀無クセラレテ輸入品ノ取引ヲ見
ルニ至ルニ非スヤト思料セラル而シテ現在ニ於ケル取引狀
況ハ輸出ニアリテハ邦商ハ支商ヲシテ夜陰ヲ利用シテ商品
ヲ持運ハシメ之ヲ輸出シ得ル程度ニ迄達シ居レリ(勿論支
商ノ恐怖心未タ全然去ラサルカ爲公然トハ取引出來ス)輸
入ノ方ハ輸出ヨリモ惡シク少量ノ取引ヲ除キ今尙取引殆ト
杜絶ノ狀態ニ在リ

本件排日問題ニ關シテハ本官ハ從來通機會アル毎ニ警備司
令、省政府主席、市長、公安局長ト其取締又ハ緩和方ニ付
懇談ヲ行ヒ來リ殊ニ四月十二日ニハ從來行營中ナリトノ理

ニ通達シタルカ二十三日ニハ日本租界波止場ヨリ用事ヲ終
リ歸途ニ在リタル苦力ヲ日本租界附近ノ支那街ニテ恐喝シ
金錢ヲ強要シタル暴漢二名公安局ニ逮捕拘引セラレタル事
實有リ又曩ニ排日團ニ拉致銃殺セラレタルモノト一般ニ思
惟サレ居タル往電第九五號ノ染料商及往電第一〇八號中ノ
五ノ通信關係ノ支那人モ四月二十日前後ニ釋放サレテ歸來
セリ支那側カ右様取締ノ態度ニ出テタル原因ニ付テハ市中
種々ノ説有リテ明カナラサルモ今日迄ノ處往電第一二八號
ノ通達介石ノ命令ニ依ルモノニ非スヤト察セラル兎ニ角四
月十八、九日頃ヨリ暴力行為ハ全然其ノ跡ヲ絶チ謠言モ次
第二鎮マリ脅迫狀モ勢クナリツツアリテ從來暴力團ノ暴行
脅迫又ハ謠言ニ惧ヲ抱キ上海方面ニ避難シ田舎ニ歸リ若ハ
住宅ニ引籠リ居タル日商關係ノ支那人中店員級ノ者ハ最近
ニ至リ殆ト全部歸還出勤シ買辦級ノ者ニテ一時當地ヲ去リ
タル者モ弗々歸還シツツ有リ尤モ後者ハ尙様子ヲ見送り居
リ未タ出勤スルニ至ラサルモ現在ノ狀態ニシテ逆轉惡化ス
ルコト無クハ彼等モ其ノ中出勤スルモノト想像セラル
商取引ニ付支商間ニ未タ恐怖ノ念去ラス互ニ他人ノ取引ヲ
開始スルヲ俟チ居ル狀態ナルト他方ニハ輸出入トモ目下閑

由ノ下ニ外國側トノ會見ヲ避ケ來レル總司令部曹總參謀長
(陸軍部次長)ト會見ヲ遂ケ又今回ノ當地排日運動勃發以前
ヨリ共匪討伐ノ爲西安方面ニ出張シ後保定ニ赴キ居タ
ル何成濬四月十二日當地ニ歸來セルニ付十四日同人ニ會見
排日取締ヲ要求スルト同時ニ同人カ近ク蔣介石ニ面會ノ
爲南昌ニ赴クコトナリ居タルニ付當地ニ於ケル排日(日)狀
況ヲ蔣ニ傳ヘ其取締方申入度旨申入置キタリ何ハ十九日當
地出發南昌ニ赴キ三十日歸來セルニ付蔣ノ態度ヲ聞ク爲當
方ヨリ會見ヲ申込居レルモ先方多忙ノ爲未タ面會出來ス
當地ニ於ケル今回ノ排日貨運動ハ屢報ノ通邦人及其商品ニ
何等手ヲ觸ルルコトナク恐怖政策ニ依リ支商ヲシテ自ラ邦
商ニ近付カシメス又國貨提倡ノ下ニ支商ヲシテ其自由意志
ニテ日貨ヲ取扱ハサル形式ヲ採ラシメタルモノニシテ當初
ヨリ抗議ノ手懸トセサル關係モアリ本官ハ事件發生以來當
地邦商ニ對シ種々手段ヲ講シ支商ヲ誘ヒ取引ヲ行ハシメ關
係貨物ノ運搬其他取引上ニ妨害ヲ加フルモノ現ハルトキ
ハ本官ニ於テ支那側ニ對シ適切ノ處置ヲ採ルヘキニ付日本
側ニ於テ絕對暴力ヲ用ヒサル範圍ニ於テ取引ノ敢行ヲ懲懾
シ以テ支那側ノ排日貨運動ヲ切崩サシメントシタル恐怖政

策ニ依リ極度ニ戰慄シ居レル支那商ハ禍ノ身ニ及ハンコトヲ俱レ絶對ニ邦商ニ接近セサリシ爲如何トモ策ノ施シ様ナカリシモノトナリ然ル處最近排日貨運動幾分緩和シ來レルヨリ在留邦商モ本官ノ意ヲ体シ此ノ際利益ヲ以テ支商ヲ誘ヒ局面ノ打開ニ努メ居レリ

支、南京ニ轉電セリ

624 昭和8年5月6日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

日貨排斥に関し省主席に抗議申入れについて

福州 5月6日後発
本省 5月6日後着

第一四八號

往電第一四六號ニ關シ

一、四日林知淵ノ來訪ヲ求メ本官ヨリ蔣光鼐ト會見シタキ意嚮ヲ表シタル處林ハ之ニ贊意ヲ表シ六日會見日取りヲ通報スヘシト語り且ツ蔣ニ對シ本官ノ言ハントスル處ヲ書キ物トシタル物無キヤト尋ネタルヲ以テ蔣カ本官トノ會見ヲ回避スル場合ヲ慮リ用意シアリタル公文(貴電第一七號及第

依然之ニ對シ回答ヲ避ケタリ

三、本官ノ得タル印象ニ依レハ蔣ハ本官ノ警告ニ對シ巡警ノ日本人ノ品物ニ手ヲ附スル事及臺灣籍民ノ煙館ニ不當ニ臨檢スル事ノ事故タケハ慎重取締ルヘキカ一步進テ日貨排斥ソノモノ及巡警ノ日貨排斥關與迄モ阻止センスル意思ハ未タ無之様思ハレタリ右不取敢

支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、厦門へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

625 昭和8年5月19日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

省主席は日貨排斥を徐々に緩和する方針との

林知淵觀測内話について

福州 5月19日後発
本省 5月20日前着

第一五六號

一、當地日貨排斥ハ往電第一五〇號以來事態更ニ幾分緩和シ公安局巡警ノ日貨沒收日貨取扱支那人拘留等ニ關スル新タナル事件殆ト發生セス「バナナ」等ノ日貨ノ小賣ハ數日來

一八號ニ基キ作成セル)寫ヲ之二手交セリ(林ハ右書キ物ヲ直接蔣ニ讀ミ聞カセ又省政府委員ニモ見セル積リナルニ付正式ニ公文ニテ提出方今回タケ見合セラレ度シト言ヘルニ依リ之ヲ承諾セリ)

二、六日朝林本官ヲ來訪シ昨夜前記公文寫ヲ省政府要人ニ提示シ協議シタル(處)一、二ノ者ヲ除キテハ公安局ノ措置ヲ不可トシ適當ナル方法ヲ以テ公安局長ニ反省ヲ求ムル事ニ決定セリ右公文ハ蔣ニモ提出シアリ事態ハ漸ヲ追テ改善スルモノト思フト語り同日十一時省政府ニ於テ蔣ト會談アリ度シトノ事ナリシヲ以テ定刻ニ蔣ヲ訪問(林モ同席ス)本官ヨリ從來御訓令ノ趣旨ニ依リ警告ヲ與ヘ特ニ公安局巡警ノ日貨排斥參加ヲ阻止シ同時ニ帝國臣民ノ居室、店舗ニ巡警ノ恣ニ侵入シ臨檢、搜索等ヲ爲スヲ禁止セラレ度キ旨述ヘタルニ對シ蔣ハ鄭重ニ日支間事故ノ發生ヲ遺憾トスル旨及充分ナル取締ヲ行ヒ事故ノ發生ヲ防止スヘシト述ヘタルカ彼ハ遂ニ日貨排斥ソノモノ及公安局巡警ノ關與ヲ停止スヘキ事ニハ言及セス此ノ點ニ付テハ辯明モセス又言明モセサリキ、依テ本官ハ種々會談ノ後辭スルニ先立ち重ネテ盡力ニ依リ排日及日貨排斥ノ終熄ヲ見シ事ヲ期待スト云ヘル處

少シク活氣ヲ呈ス但大口ノ注文等ハ未タシ

三、本官ハ五月六日蔣光鼐ト會談以來各方面ニ手ヲ廻シテ其反響ヲ注視シ居タル處蔣カ省政府委員ト諮リ公安局長ヲ招致シテ出過キタル遣方(巡警ノ直接干與)等ヲ慎重様嚴重命令セル事確實ナリ十七日林知淵ハ本官ニ對シ蔣ハ必スシモ極端ナル排日思想ヲ有スルニ非ス又本官ヨリ林ニ最初本件ニ關スル警告ヲ發シタル際林ハ蔣ニ對シ日本ト事ヲ醸シ又ハ軍隊ノ力ヲ以テ之ト爭フ決意有リヤト念ヲ押シタル處現在手兵千五百名足ラス到底日本ト事ヲ構フル意思無シ林ニ於テ然ル可ク本官ト聯絡シ誤解ヲ避クル様セラレ度シト言ヘルニ依リ林ハ一時今回ノ日貨排斥カ十九路軍ノ手ニ依リテ行ハレタル以上相當惡化スルモノト考ヘ本官トノ面接スラ避ケ居リタルモ右蔣ノ意思ヲ体シ再ヒ本官ト聯絡スル事トナリタルモノナリ今回ノ日貨排斥及籍民煙館壓迫ハ蔡廷楷^(電)ヨリ直接公安局長ヲ使喚セルモノニシテ蔣ノ本意ニ非ス時局柄公安局長ニ對シ正面ヨリ一切ノ排日工作ノ停止ヲ命スル事ハ立場上甚タ困難ナル事情有リ蔣ハ除々ニ今回ノ日貨排斥ヲ緩和シ日本側ノ感情ノ激成ヲ防クヨリ外無シト考ヘ居レリト内話セリ

冒頭引用往電ノ通轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

626 昭和8年5月29日 在南京日高總領事より
内田外務大臣宛(電報)

原産國標記条例の修正公布について

南京 5月29日後発
本省 5月29日後着

第三〇三號

往電第二九二號ニ關シ

國民政府ハ第一條ニ「但シ困難ナル場合ハ原産國文字ヲ以テ原産國名ヲ標記スルコトヲ得」ト修正文ヲ加ヘ二十七日附ヲ以テ之ヲ公布セリ
冒頭往電ノ通り轉電セリ
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

627 昭和8年5月30日 在南京日高總領事より
内田外務大臣宛(電報)

原産國標記条例修正の経緯について

モ邦字ヲ用ユルモノ殆トナキ實情ニアル上支那字又ハ邦字ノ「マーク」ハ支那ヨリ再輸出スル場合不便多キコト等ヲ指摘シ且ツ現在本邦ニ於テハ羅馬字モ公ニ認メラレ居ル事實ヲ説明シ何等カ實際ノ不便除去方考究ノ要アルコトヲ説キ置キタリ(是等ノ點ハ同日徐次長ニモ説明シ且ツ本條令カ排日貨ノ手段トナル虞多々アリトテ客年在支公使宛貴電第四九七號ノ趣旨ヲ力説シ置キタリ)
ニ尙本條令實施期日ハ既ニ海關ヨリ告示セル通り明年一月一日ニ變更ナキ趣ナリ
公使、北平、天津、青島、廣東、漢口へ轉電セリ
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

628 昭和8年5月31日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛

廣東派勢力が省政府を掌握している限り日貨排斥の緩和は困難との見解について

機密第三〇五號 (接受日不明)

昭和八年五月三十一日

在福州總領事 守屋 和郎

第三〇五號

往電第三〇三號ニ關シ

二十九日外交部朱國際司長ニ付確メタル處

「標記文字ニ支那字ノ外英、佛字ヲモ認ムル修正案ヲ外交、財政兩部ヨリ提議セルニ立法院内部ニテ經濟、財政、外交三委員會ニ審査ヲ命シ原案維持(支那字ノミヲ用ユル案)ノ報告ニ接セルニ付朱ノ盡力ニテ立法院ノ本會議ニハ關係部主任官列席ノコトニ取運ヒ朱ヨリ英、佛字ヲ認ムルノ要ヲ力説シ財政部代表之ニ和シタルモ立法委員連ヨリ烈シク攻撃セラレ實業部代表亦原案維持ニ贊成シ議論沸騰セルニ依リ孫立法院長ハ外交部ノ提議ヲ記セル羅文幹ノ公文ヲ朗讀セシメタル上行政部代表ヲ退席セシメテ審議ヲ進メ冒頭往電ノ妥協修正案ニ落着キタルモノノ由

外交部トシテハ財政部ト共ニ百方英、佛字使用ノ爲努力セル次第ニテ朱(ハ)今回ノ修正ハ極メテ拙劣且ツ實際ニ適セスト思考スル旨往復關係文書ヲ使用シテ述ヘ居タリ

右ニ對シ本官ヨリ本邦ノ對外貿易ハ英語ヲ主トシ各種商標

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

日貨排斥ノ緩和シ難キ事情等報告ノ件

一、當地日貨排斥緩和方ニ關シテハ本官屢次電報ノ通正面及側面ヨリ所有スル方法ヲ以テ省政府主席蔣光鼐ニ對シ警告ヲ發シ公安局巡警ノ直接日貨排斥ニ關與スルヲ阻止セシメムト努力シタル次第ナルカ結果ハ極メテ不満足ニシテ依然公安局ハ其ノ關與ヲ止メス體裁ヲ繕フ爲現在ハ表面上各界自動救國會ノ依頼ノ下ニ行フ形ト爲シ居ルモ事實公安局カ秘カニ日貨取扱商ヲ拘引シ之ニ制裁ヲ加ヘ居ル狀況ナル爲一般中國人ハ未タ日本商人ト大口取引ヲ行フニ至ラス内地人及臺灣籍民カ時ニ冒險的ニ雜貨石炭等ヲ輸入シ秘カニ小賣ヲ計リ居ルモ成績思ハシカラス本官ノ觀ル處ニ依レハ福州ノ事態ハ漸ク廣東及汕頭ニ於ケル如ク日貨排斥ノ膠着狀況ヲ現出セムトシ居ルモノニシテ唯當地ニハ中國人ノ間ニ深く潛リ込ミ中國人ト一見區別シ難キ服裝及生活振ニ依リ巧ミ日貨ヲ小賣シ得ル臺灣籍民多數在ル結果如何ニ嚴格ニ中國官憲側ニテ取締ヲ爲スモ生活必需品ナル限り秘カニ中國人ニ於テ之ヲ買求ムルモノアル點稍廣東汕頭ト事情ヲ異ニシ日貨排斥如何ニ惡

化スルモ少クトモ在留臺灣籍民ニハ相當自活ノ途アルヘシト謂ヒ得ルノミ

三、當地日貨排斥ノ原因動機ニ付テハ既報セルヲ以テ茲ニ繰リ返ササルモ固ヨリ原因動機等ハ複雑ナルコト疑ナク從テ本官ヨリ抗議ヲ爲スモ容易ニ手ヲ引カス本官ノ抗議ニ依リ幾分效果アリ名ハ日本人ノ所有又ハ占有スル物品ニ對シ直接行動ヲ取ルコト減少シ及時ニ斯ノ如キ事故發生シタル場合我方ノ要求ニ基ツキ關係日貨ヲ返還シ又日本商人ノ使用人ナルコトヲ證明シサヘスレハ關係日貨ノ運搬ニ從事シタル中國人ヲモ無事釋放シ居ルコト等ニ止マル尤モ日貨排斥ノ當初殆ント日本人ニ對シ「ボイコット」シタルト等シキ態度アリタル解人夫及稅關苦力カ本官屢次ノ交渉ニ依リ公安局ニテ何等實力ニ依ル干渉ヲ爲ササルヲ見漸ク少數ノ者力條件次第ニテハ日貨運搬ヲ肯ンスルニ至リタルコトハ本官力直接蔣光鼐ニ面談前ノコトナルモ矢張本官抗議ノ結果ト見ルヘキモノナリ以上ノ外中國官憲側ハ少シモ排貨運動ヲ緩和シタル形跡ナク本官ハ排貨運動力却テ潛行的ニ且巧妙ニ即チ我方ニ乘スヘキ口實ヲ與ヘサル如キ方法ニ依ル様ナリタルカ如ク觀察セラ

人ニ對スル或ル種ノ壓迫力唯一ノ様思ハル而シテ之トテモ日貨排斥ニ對シ效果のニ之ヲ利用シ得ルヤ疑ハシク之カ爲今回ノ排日ニ於テハ生命身体ケハ絕對ニ安全ト考ヘ居ル在留邦人ノ危險ニ曝スニ至ルカ如キコトナキヲ保シ難ク實行ニ際シテハ慎重ノ考慮ヲ爲ス要アリ急ノ間ニ合ハサル様思料セラル當地日貨排斥ハ又南京漢口及上海ニ於ケル今回ノ排日ニ相當刺戟ヲ受ケ居ルコト事實ニシテ又特ニ廣東及汕頭ニ於ケル殆ント「完了セル事實」ナル日貨排斥カ廣東人治下ノ福建ニ於ケル日貨排斥ノ刺戟タルコト亦疑ナキ所ナリ

三、事情上述ノ如クナルヲ以テ本官ハ引續キ機會アル毎ニ嚴重ナル抗議ヲ爲スト共ニ手ヲ替ヘ品ヲ換ヘ省政府實力者ニ反省ヲ促カシ以テ事態ノ緩和ヲ計ルヘキモ廣東派省政府ノ存スル限り當地日貨排斥ハ到底止マサルモノト觀測セサルヲ得ス從テ本官トシテハ廣東派カ福建ヲ去ラサルヘカラサルカ如キ事情ノ發生スルマテハ日貨排斥止マサルモノトシテ在留邦人ヲ指導シ度ク之カ爲在留邦人ニ對スル必要ナル經濟的援助等ニ付テハ追テ案ヲ具シ稟申スルコトトナルヤモ知レス御含ミ置ヲ請フ

ル(此ノ點ハ當地商人ニ於テハ本官ノ如ク解セス大體ニ於テ公安局ノ公然排貨ヲ指導スルコトナキハ幾分緩和シタルモノト爲シ居ル者モアリ)中國官憲カ執拗ニ排貨運動ヲ繼續シ居ルハ之カ開始ト同様複雑ナル理由ニ基ツクモノナルカ又我方ヨリノ抗議ニ何等脅威ヲ感セサルコトモ其ノ理由ノ一ナリ中國ノ對内政策及對外政策上ニ於ケル十九路軍ノ立場ハ相當有力ナルモノニシテ少クトモ其ノ上海ニ於ケル抗日軍事ニ付テハ民衆間ニ人氣アリ右人氣ノ手前本官ノ一片ノ抗議ニ依リ引込ムカ如キコトハ到底爲シ難キ處蔣光鼐林知淵又ハ公安局長等ニ彼等ノ立場ヲ有利ナラシムル爲ニ日本ト妥協セヨト説得シタリトスルモ容易ニ之ニ乘リ來ルモノトハ思ハレス又我方ノ重大ナル關心ヲ披歷シテ彼等ノ警告ヲ與フルトモ我方ニ警告ヲ實力ヲ以テ支持スル意思及準備ナキ以上彼等トシテハ右警告ニ對シテモ表面ハ如何ニモ尤モラシク聽從シツツ實際上ハ何等排貨方針ヲ緩和セサル從來ノ方針ヲ變更セシムルコトヲ得ス本官ハ今日マテ手ヲ盡シテ緩和策ヲ講シタル一方向等カノ報復的手段ナキカト種々考慮ヲ繞ラシタル當地ニ於テハ全然右手段ヲ發見セス臺灣在留支那

右從來ノ報告ト重複ノ點アルモ總括的ニ當地排貨事情報告申進ス

本信寫送付先

在華公使、北平書記官、上海、南京、漢口、廣東、廈門、

汕頭各公使館長

臺灣總督、臺灣軍司令官、馬公要港司令官

629

昭和8年6月12日 内田外務大臣より
在南京日高總領事宛(電報)

原産國標記條例に關し英仏文字の使用を認め

実施も延期するよう交渉方訓令

本省 6月12日後6時20分発

第二一號

貴電第三〇三號並第三〇五號ニ關シ

一、今次ノ改正ハ我方ニ對シ一層不利トナリタル次第ナルカ曩ニ英米商業會議所側ニ於テ支那文字ニ反對シ英語使用ヲ主張セルハ(米國ハ当初ヨリ原産國文字ヲ主張シタルモ斯クスレハ自國ニ關スル限り英語ヲ使用シ得ルコトヲ予定シテノコトナルコト明瞭ナリ)支那文字ヲ使用スル

場合ニハ商品ノ仕向地ニ関スル融通性ヲ甚シク減殺セラ
ル、ニ至ルヘシトノ理由ニ基クモノナル処我國ニ於テモ
輸出品ニ付スル製産地名ハ殆ント総テ英語ヲ以テ記入セ
ラレ居ルヲ以テ支那文字使用反対ニ関シテハ全然英米側
ト全一ノ立場ト主張ト有シ居ルモノナリ從テ今回ノ改
正ハ原産国文字ト謂ヒテ各国ニ対シ公平ナル取扱ヲナシ
タルカ如クナルモ其ノ実ハ右我方ノ事情ヲ無視シテ英米
側ノ要求ノミヲ容認シタルコト、ナリ本邦品ニ対シ結果
ニ於テ事実上ノ差別待遇ヲナシタルモノト謂フヘシ
ニ、他方支那側トシテモ今次ノ改正ニ依リ從來ノ英支語以外
ニ認メサリシ海關用語ニ一大新例ヲ開クモノト謂フヘク
又是カ実施ニ当リテモ各国夫々言語ノ異ル丈ケ原産国ノ
認知ヲ困難ナラシムル一方商品カ果シテ原産国ノ文字ヲ
以テ標記セラレ居ルヤノ問題例ヘハ日本品ニ付「ローマ」
字ヲモ認ムルヤ等ノ問題モ生スヘク旁々之ニ依リ通關事
務ヲ滯留セシムルコト甚大ニテ若シ支那側ニシテ本件制
度採用ノ目的カ一ニ國產獎勵ニアリトセハ斯クノ如キ不
便ナル方法ヲ殊更ニ採用スルノ理由ハ了解シ難キ次第ナ
リ將又「トルコ」埃及等ノ製品ニ付テハ結局英佛語等ヲ

般不況、奧地不安ニ依リ一般取引不況ノ影響ヲ受ケ居ルニ
過キス最近時局安定ニ向ヘルモ日尙淺クシテ之カ恢復渺々
シカラス其ノ本邦品ト競争ノ地位ニ在ル支那及外國品ノ手
持筋カ商略上割安ノ本邦品ノ急遽ナル進出ヲ好マス兎角ノ
策動ヲ廻ラス（從來排貨運動後暫ク繼續セラルル常有ノ現
象ナリ）向無キニ非サルモ少クモ排貨運動ト目スヘキ事實
認メラレサルニ漠然支那側ニ排貨取締ヲ要求スルモ其ノ效
果期待セラレサルヘシト認メラルルヲ以テ差當リ本邦商ヲ
シテ日支關係緩和ニ向ヒツツアル此ノ空氣ニ乘シ奧地向出
荷ヲ試ミ以テ從來閉塞セラレ居タル販路ヲ自ラ開拓スル事
ヲ懲憑シ尙便宜ノ處置トシテ邦商貨物ニ當館ノ證明書ヲ附
與スル事トシ萬一排貨ノ事實アル場合ハ嚴重支那側ニ抗議
スル方針ナリ
尙北平ニ於テハ依然排貨運動アル趣當地邦商ヨリ頻リニ當
館ニ訴ヘ出テ居ル處差當リ其ノ具體的事實トシテ判明シ居
ル同地和平門ニ於ケル日貨検査機關ノ撤廢方ヲ許卓然ヲ通
シ黃郛ニ申入レ置ケリ
支、北平、南京、濟南、漢口、青島、滿ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

認ムル外ナカルヘキコト、思考ス就テハ貴官ハ本件条例
ノ無期延期方御交渉相成ル一方（客年本大臣發支宛電報
第四九七号参照）右ノ次第國民政府當局ニ対シ可然申入
レラレ「原産国文字又ハ英佛文字」ト改正スルコトニ此
上トモ極力御盡力アリタシ
支、北平ヘ轉電シ支ヨリ上海ヘ轉報セリ

630 昭和8年6月15日 在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛（電報）

日本商品の売行不振は排日貨の影響とは認め
られない旨報告について

天津 6月15日後発
本省 6月15日後着

第三一九號

停戰協定成立以來當地邦商（主トシテ綿絲布商）中ニハ其ノ
手持品ニ對シ支那商ノ買氣豫期ノ如ク渺々シカラサル爲或
ハ排貨運動ニ依ルモノナリト豫斷シ當館ニ對シ支那側ニ交
渉方ヲ頻リニ申出ツル者アル處當館ノ得タル情報ニ依レハ
當地地方ニ於テハ最近數ヶ月實際排貨ノ事實無ク本邦品ハ一

631 昭和8年7月1日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛（電報）

黃郛の党部ならびに排日団体に対する態度な
ど注視方北平および天津に指示について

上海 7月1日後発
本省 7月1日後着

第三八一號

本使發北平、天津宛電報

合第三八一號

華北ノ政局ハ停戰協定成立ニ關聯セル諸問題等尙解決ヲ俟
ツモノ鮮カラサルモ大体ニ於テ政務整理委員會ノ成立、市
長其ノ他ノ任命等ニ依リ黃郛ニ於テ漸次内政的方面ノ施設
ニ着手スルモノト期待セラレ特ニ黃ノ持論及其ノ北上前ノ
抱負決心等（大臣宛往電第二四〇號第二五三號及第二五四
號）ニ鑑ミ同人ノ黨部及排日団体等ニ對スル對策如何ハ我
方ニ於テ多大ノ關心ヲ有スル次第ナリ尤モ天津發大臣宛往
電第三二八號及北平發大臣宛往電第二七九號ニ依レハ黃ハ
相當黨部ニ氣兼シ居リ又其ノ實力モ充實シ居ラサル等ノ爲
早急ニ其ノ政策ノ實行ヲ期待シ得サル情勢ナルヤニモ認メ

ラルル處今後トモ右黨部及排日団体等ニ對シ黃ノ態度及政策實施狀況等折角御注意ノ上隨時報告相成度シ
大臣、濟南、青島、南京、滿へ轉電セリ

編注一 『日本外交文書』滿州事變第三卷、八三九頁。
編注二 同右、八四四頁。

632

昭和8年7月3日 在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

袁良北平市長に排日行為取締を要求について

北平 7月3日後発
本省 7月4日前着

第二八七號

一、停戰協定以後當地方ニ於ケル抗日會ノ活動ニ付テハ當該官憲ノ注意ヲ喚起スル爲ニ三日閩市長ヲ往訪シ同會ノ活動狀況ニ付テ當館警察ヲシテ調査セシメタル處ニ基キ六月中十三日護謨靴底同十五日自轉車材料及「バナナ」同十八日護謨靴底同二十一日綿布十六匹抑留沒收等ニ係ル抗日行為ノ實例ヲ舉ケ之等ハ悉ク抗日會ノ活動ナルニ付

ルニ付事實上其ノ活動ヲ鈍ラセル方針ヲ以テ進ミ居ル次第ニシテ黃郛ヨリ中央ニ對シテ北支ノ大勢ニ鑑ミ黨部取締方ヲ要求シ居レル次第ナル旨ヲ述ヘタル上支那側ハ日本側ノ要求ナクトモ排日取締ハ事實上充分實行スル方針ナルニ付日本側ニ於テモ右支那側ノ態度ニ相應シテ北支局面ノ轉換ニ盡力セラレ度シト希望シ居タリ
支、滿、南京、天津ニ轉電セリ

633

昭和8年7月10日 在福州守屋總領事より
内田外務大臣宛(電報)

日貨排斥の現状ならびに軍艦五十鈴艦長の省
主席往訪について

福州 7月10日後発
本省 7月10日後着

第二〇一號

一、當地排日對策トシテ本官ノ採リ來レル措置ニ付累次電報ノ次第アル處曩ニ省政府委員李清泉カ蔣光鼐ニ強意見ヲ爲シ得ル(關係?)ニアルヲ探知シ臺灣公會長林熊祥ヲシテ之カ說得ヲ試マシメタルニ幸ヒニシテ五月初頭阿片煙

同會ニ對シ將來此ノ種行為ヲナサシメサル様取締ヲ實行セラレ度ク進テハ同會其ノモノノ解散ニ導カレ度キ旨ヲ篤ト申入レタル處閩ハ前記各件ニ付早速公安局ヲシテ取調シムヘク若シ右ノ内解決未済ノ件アラハ即時解決ヲ計ルヘキ旨ヲ述ヘタル上抗日會ハ七月一日ヨリ其ノ看板ヲ取外サシメタルニ付目下ハ存在セサル筈ナリト答ヘタルヲ以テ小官ハ聞ク所ニ依レハ國貨提倡委員會ナルモノ最近組織セラレタル趣ニテ抗日會ノ看板ハ取外スモ實質上抗日行為ヲナス以上ハ假令其ノ名稱カ代ルトモ事態ニ何等變化ヲ生セサル次第ナルヲ以テ同委員會ノ行動ヲ充分取締ルコトトセラレ度キ旨ヲ述ヘタリ右ニ對シ閩ハ抗日行為ヲ爲サシメサル第一階梯トシテ其ノ看板ヲ取外サシメタル次第ナルニ付國貨提倡委員會ト稱シ乍ラ尙抗日行為ヲナス場合ニハ更ニ第二段ノ措置ニ出ツル積リナルニ付充分安心セラレ度シト述ヘタリ

二、次ニ黨部ノ現狀ニ付尋ネタルニ對シ市長ハ黨部ハ法令ニ依リ定メラレタル所ナルカ故ニ正面ヨリ其ノ存在ヲ否認スルカ如キ措置ニ出ツルハ不可能ナルモ黃郛モ自分モ共ニ國民黨員ニアラス又黨部ハ當地方ノ氣受モ宜シカラサ

館ニ對スル公安局巡警ノ不當措置ハ責任ヲ以テ阻止セシムヘシトノ返答アリ爾來既ニ煙館ニ關スル不快ナル事件全然其ノ跡ヲ絶ツニ至リタリ尤モ右ハ李ノ好意的斡旋ノ結果トノミ判斷シ難ク又現在廈門ニ於テ事件頻發シ居ルニ鑑ミ何時再ヒ惡化スルヤ計リ難キ狀態ニアリト雖兎ニ角當方トシテハ煙館問題ニ付過去二ヶ月半ノ間小康ヲ得タル次第ナリ

二、日貨排斥ノ點ニ至リテハ凡ユル努力ニ拘ラス今ニ好轉ノ模様無キハ往電第一九二號ノ通ナルモ北支停戰協定及中央、西南妥協交渉等ノ影響ニ依リ排日運動カ多少從來ノ深刻サヲ失ヒツツアルコトハ政府要人ノ本官ニ對スル内話及中國商人連ノ觀測ニ徴シ明カニシテ(豫期セル如ク急速且顯著ナル影響無キ迄モ)帝國政府ノ中日妥協ノ空氣促進ノ方針ニシテ中國側ニ徹底セラレンカ排貨運動モ自然下火トナルヘキ運命ニアル様思料セララル

尙本官ハ閣下發在支公使宛電報第一〇四號及閣下發廈門宛電報第三二號等ノ御趣旨ニ依リ平素ヨリ懇(意)ナル林知淵等ハ勿論蔣光鼐及公安局長ヲ始メトシ陳銘樞ト極メテ親密ナル前政府委員何公敢等ニ對シ弗々積極的ニ働キ

ノ許ニ派シタリ(此ノ項部外秘ニ願ヒ度シ)
支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、厦門ニ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

634 昭和8年8月9日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

日清汽船の長江航路維持のため國庫補助を考

慮方要請について

付記 八月十八日付通商局第二課起案高裁案

「日清汽船ノ長江航路維持金ニ関スル件」

上海 8月9日後発

本省 8月9日後着

第四六一號

日清汽船ノ長江航路維持ノ爲ニハ國庫補助ヲ必要トスル實情ハ會社ノ請願及沿岸各公館長ノ意見ニ依リ御承知ノ通ニ有之又同航路維持ハ我方長江沿岸ニ於ケル權益維持及在留民ノ安全保護ノ上ヨリ絶對ニ必要ニシテ之カ廢止ハ帝國對支政策ノ根本ヲ動搖セシムルカ如キ重大ナル結果ヲ來ス可キ事情等ニ鑑ミ本件ハ既ニ御考量中ノコトト存セラルル處

懸クル必要ヲ感シ其ノ手初トシテ七月五日公安局長丘ヲ訪問、右方針ニ依リ意見交換ヲ行ヘリ丘ハ七日日本官ヲ訪問セルカ兩同トモ彼ハ誠實ニ應酬シ日支親善ノ要ヨリ福州ニ於ケル日支人ノ惡感情除去ノ爲ニ本官ト從來ヨリモ頻繁ニ會見シ意見ノ疎通ヲ計リ度シト言ヘリ
三、次テ七月五日入港ノ答ノ軍艦五十鈴艦長ヨリ同道ノ第十三驅逐隊司令初對面ノ挨拶ヲ兼ネ本官ノ案内ニテ蔣ヲ訪問シ度シトノ一日附電報接到、時局柄如何カト考ヘタルモ本官ニ於テ充分手綱ヲ締メ居レハ間違モ起ラサルヘシト考ヘ右様取計ヒ七日午後本官ハ艦長以下ヲ蔣ニ案内セリ其ノ際艦長ハ本官ノ指示セル要領ニ依リ日支親善ノ要アルヲ簡單ニ挨拶シ本官亦同様ノ意見ヲ述ヘ(日貨排斥阻止方ニ付故意ニ之ニ言及スル事ヲ避ケ單ニ輕ク不良分子ノ策動ニ依リ貿易上打撃ヲ受ケ居ル事ハ日支親善ノ阻害ナル事ヲ附言ス)タルニ對シ蔣ハ林知淵等立會ノ下ニ比較的打撃ケタル態度ニテ本官ニ接シ當ラス觸ラスノ言葉乍ラ全力ヲ盡シテ當地居留民ノ生命、身体ノ保護ニ任スヘク不良分子ノ策動ハ之ヲ抑壓スヘシトノ趣旨ヲ述ヘ居タリ蔣ハ答禮トシテ翌八日林知淵及莫外交科長ヲ本官

少クトモ來年度ニ於テ漢沙航路ノ現狀ヲ維持セシムルニ必要ナル國庫補助ヲ見ル様特別ノ御配慮ヲ仰度シ
北平、南京、漢口、蕪湖、九江へ轉電シ上海へ轉報セリ
漢口ヨリ宜昌及長沙へ轉報アリタシ

(付記)

日清汽船ノ長江航路維持金ニ関スル件

(昭和八年八月十八日)

滿洲事變以來ノ支那排日運動ニ因リ日清汽船株式會社ハ貨客共ニ激減多大ノ損害ヲ蒙リ今や長江航路ノ維持困難ナリトテ之カ救済方ニ付全社ヨリ在上海石射總領事ヲ通シ別紙要旨ノ通請願ノ次第アリ通信省ニ於テモ今般日清汽船長江航路維持ノ爲明年年度豫算ニ一百十四万六千圓ヲ計上スルコトニ決定セル趣ナリ

九 中国排日問題

惟フニ長江流域ニ於ケル邦人ノ發展及我商權ノ擁護擴張ニ寄與シ來リ同社長江航路ハ事實我對中支貿易及交通ノ樞軸ヲ爲シ且同方面各地在留邦人ニ鈔カラサル便益ヲ供與シ來レル處若シ日清汽船ニ於テ長江航路ヲ休航スルカ如キコトアランカ我對中支發展ノ生命線ヲ失フモノト謂フヘク有事

ノ際在留民ノ避難及往復上ニモ支障ヲ來ス虞アルノミナラス我一般對支策ニ及ホス影響亦測リ知ルヘカラサルモノアルヘシト憂慮セラルルヲ以テ本省トシテハ右通信省計上ノ補助金豫算ノ成立ヲ見ル様閣議等ニ於テ有力ナル支持ヲ與フルコトト致シ度シ

追テ補助金ノ下付ニ當リテハ從來ノ經驗ニ徴シ左記趣旨ノ命令條項ヲ附セラレ度旨長江各地領事ノ意見ノ次第モアリ通信省ニ右様申送ルコトト致シ度シ尙日清汽船最近ノ業態ニ関スル長江各地領事ノ報告及在支有吉公使ノ本件ニ関スル意見ハ隨時通信省ニ移牒同省ノ参考ニ供シ置ケリ

命令條項

有事ノ際長江筋避難民ノ輸送ニ要スル船舶ノ廻送発着等ニ関シテハ出先官憲ノ指揮ニ服スヘシ尙右避難民ノ輸送ハ無賃トス

(別紙)

長江航路維持ニ関スル日清汽船請願ノ要旨

天津方面ヲ除キテハ停戰協定後モ支那側ノ排日運動事實ニ於テ緩和セス長江筋ニ於テハ熱河討伐開始後特ニ惡化

セル状態ヲ依然持續シ居リ何等好轉ヲ見ス日清汽船ノ長江各線六月分荷客カ四、五月ノ最悪ノ実績ニ比シ何等好轉ノ跡ヲ示ササルハ之ヲ確證スルモノト云フヲ得ヘシ

一、日清汽船本年一月乃至五月ノ長江各線ノ營業ハ甚タシキ不振ニシテ五月ノ如キハ收入約二万三千圓ニ過キス実ニ慘憺タル有様ナルカ六月モ亦五月ニ比シ好轉ノ跡無ク今後モ荷客ノ増加ヲ期待スルハ困難ナリ而シテ前記五月ノ荷客運賃ヲ基礎トシ上海漢口線使用船四隻一年百三十航海漢口宜昌線一隻年三十八航海漢口長沙線一隻二十四航海トシ算定スレハ一個年間ノ運賃收入ハ僅ニ約十七万圓ニ過キス

一、然ルニ前記三線ヲ維持スル爲ニ要スル經費即チ使用船六隻百九十二航海ニ要スル經費ハ約百六十四万圓ニシテ此ノ中ヨリ前記收入十七万圓ヲ控除シタル殘額百四十七万圓ハ実ニ損失トナル

一、日清汽船ハ滿洲事變以來連年多大ノ損失ヲ忍ヒ來リ之カ爲ニ十數年來蓄積セル諸積立金モ殆ト皆無トナリ会社創立以來ノ苦境ニ陥リ此ノ上損失ヲ來スニ於テハ会社ノ存亡問題ニ逢着スル窮狀ニアルニ拘ラス本年上半期ハ勿論

地取引ヲ獎勵スルノ態度ヲ取り來リタル處本月九日伊藤洋行ノ取扱ヒ綿絲二五俵ハ省內安新、高洋縣境ニ於テ高洋縣黨部検査員ノ爲同月二十八日裕大紡績等ノ取扱綿絲三〇六俵ハ省內文安縣蘇橋ニ於テ反日會ノ爲差押ヘラレタルヲ以テ當館ヨリ于學忠ニ對シ嚴重交渉中ナルモ尙解決ヲ見ルニ至ラサルニ更ニ本月六日前記蘇橋ニ於テ高洋行キノ伊藤洋行日本棉花、南信洋行東洋棉花ノ各取扱ニ係ル綿絲九四〇俵、綿布一〇俵(以上何レモ日本商取扱品タル當館ノ證明書ヲ有ス)及支那商取扱ニ係ル日本綿絲三二六俵、日本綿布二五點ハ河北省清河第一検査所(舊反日會)ノ爲押ヘラレタルヲ以テ當館ハ九日省政府ニ對シ嚴重抗議シ置ケルモ今回ノ被害商品ハ三十餘萬弗ノ價格ニ達シ關係邦商ニ取り重大事件タルハ勿論更ニ日支關係好轉シツツアル際尙此ノ種不法事件ノ頻出スルコト誠ニ遺憾ノ次第ナルニ付貴地政務委員會側ニ對シテモ至急被害品ノ返還、今後ノ取締等ニ付可然御交渉相煩度シ

大臣、支、南京、滿へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

下半年ニ於テモ致命の大缺損計上ハ免レサル狀態ニテ從テ從來ノ方針ニ依ル政府ノ航路補助金ヲ以テシテハ到底支フルコト非ハス依テ長江航路ノ重要性ニ鑑ミ長江航路ノ現狀ヲ維持スル爲金百四十七万圓ノ下附ヲ申請スル次第ナリ

(欄外記入)

別ニ日清汽船ノ沿岸航路ニ對シ四十万圓計上ノ趣ナリ

635

昭和8年8月9日

在天津田中總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

反日会による日貨抑留事件に關し駐平政務整理委員會へ抗議方依頼について

天津 8月9日後発

本省 8月9日後着

第四〇〇號

本官發北平宛電報

第五七號

從來當館ニ於テハ時局改善ヲ機會ニ出來得ル限り邦商ノ與

636

昭和8年8月17日

在天津田中總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

華北における党部の抗日活動抑制を冀望へ申入れ方有吉公使に依頼について

天津 8月17日後発

本省 8月17日後着

第四一二號

本官發在支公使宛電報

第二七六號

北平宛往電第五七號日貨抑留事件ハ省政府側ヨリ黨部説得ノ結果圓滿解決ノ見込ナルモ之カ爲漸ク好轉ニ向ヘル日貨ノ輿地向取引ニ一頓挫ヲ來シ之カ影響甚大ナル處元來當方面排日運動ハ概シテ都會ヲ避ケ注目ノ及ハサル輿地向ニ於テ根強く行ハレ殊ニ時局安定ニ向ヒ日本側ノ威壓ヲ感セサルニ至リテヨリ一層其ノ氣勢ヲ加ヘツツアルヤノ感アリ前記抑留事件ノ如キ全ク之カ一例ニ外ナラス最近ニ至リテハ當市ニ於テモ商民救國會排貨傳單ヲ撒布セル等本運動復活ノ兆アリ今次時局安定ト共ニ益々組織的ニ且ツ露骨ニ行ハルル懸念アリ然シテ黨部之カ主動者タルコトハ右抑留事件ニ

(欄外記入)

迄ニ領事館再開方可然旨ノ意見稟申アリ(ロ)一方重慶地方ニ關シテハ本年五月初旬同地ニ遡江セル第一遣外艦隊司令官ハ支那人ヲ相手トスル取引再開ハ尙早ナリト雖モ邦人ノ復歸ニハ差支ナシトノ意見ノ由又客月下旬軍艦ニ便乗シ長江上流ヲ巡視セル在漢口總領事館高井副領事ノ重慶視察ノ結果ニ依レハ同地ニハ今尙抗日團體存シ市政府秘書長ハ領事館ノ再開及居留民ノ復歸ハ右ニ適スル時機到ラハ通報スヘキニ付夫レ迄猶豫セラレ度キ旨申述ヘ居リタルモ同副領事トシテハ近ク領事館ヲ再開シタル上機ヲ見テ在留民ヲ復歸セシムルトスルモ邦人ノ居住ニ付テハ別段危険ナカルヘシトノ意見ナル趣ニシテ之亦在漢口總領事ヨリ此ノ際成ルヘク速ニ領事館ヲ再開スル方可ナルヘキヤニ思考スル旨意見ヲ稟申シ越セリ

三、沙市及重慶地方ノ狀況上述ノ如クナルニ拘ラス此ノ際領事館再開ヲ遷延スルハ長江上流方面ニ於ケル我方商權ノ維持上甚タ遺憾ナル一方最近四川方面ノ狀況ハ一般政局ノ變轉ノ外共匪ノ活躍及西藏軍ノ進出等アリ加フルニ外國側ノ同方面ニ於ケル利權獲得策動ヲ傳フルモノモアリテ我方トシテハ各般ニ亘リ深甚ノ注意ヲ要スルモノアル

於テ省政府カ黨部ニ對シ釈放カタ要求シ居ル事實ニ照シ甚タ明カナリ元來北支ハ南支トハ特異ノ成リ行キヲ有シ殊ニ先般塘沽ニ於ケル停戰協定ノ際懇談事項トシテ北支ニ於ケル排貨運動取締リノ一項モアリ旁々北支ニ於ケル排貨運動ノ成リ行キ如何ニ依リ當方面ニ面倒ナル問題起ラストモ限ラス此ノ際徹底的ニ取締ラシメ度處于學忠ノ現狀ニテハ黨部ノ活動ヲ抑ヘルコト困難ナルヤニ認メラルルカ幸ニシテ目下黃赴南中ニ付南京ト本件ニ付好ク諒解ヲ付ケ置ク様適當ノ機會ニ閣下ヨリ黃ニ對シ深甚ノ注意ヲ喚起方御高配相煩ハシ度シ

外務大臣、北平、南京、在滿大使ヘ轉電セリ

在支公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

637

昭和8年8月22日

内田外務大臣より
在漢口清水總領事宛(電報)

沙市および重慶の領事館再開決定について

付記

八月十日付亜細亞局第一課起案高裁案

「在沙市、重慶領事館再開ニ關スル件」

本省 8月22日後6時30分發

第四八號

機密第四八五号貴信ニ關シ

両館共再開ニ決定セル処沙市ハ遅クモ九月下旬ニハ再開ノ運ヒニ至ラシメ度意向ナルカ重慶ハ人繰ノ都合等モアリ早クモ十月下旬乃至十一月ノ見込ナリ不取敢尙ホ本件ハ支那側トノ關係ニ顧ミ成ル可ク外部ニ漏レサル様セラレ度

在支公使、北平、南京ニ轉電セリ

(付記)

在沙市、重慶領事館再開ニ關スル件 (ハ、ハ、一〇)

一、滿洲事變勃發ノ結果長江上流方面排日空氣惡化シタル爲メ重慶領事館ハ昭和六年十月一時閉鎖シタルカ上海事件後ノ排日激化ニ伴ヒ沙市領事館モ昭和七年二月閉鎖スルニ至レリ

二、然ルニ(イ)沙市地方ハ最近排日緩和シ商取引モ行ハル程度ニ好轉シタル由ニテ現ニ日清汽船會社ハ(目下沙市ノ上流宜昌迄就航シ居ルモ沙市ニハ寄港セス)沙市寄港ノ計畫ヲ有シ居リ又其ノ他ノ本邦商社モ本年秋頃同地復歸ノ希望ナルヤノ趣ヲ以テ在漢口總領事ヨリ右ト同時期頃

次第ナルニ付旁々此ノ際速ニ沙市重慶兩領事館ヲ再開スルコトトシ大体館員現地到着ノ頃合ヲ見計ヒ在支公使ヨリ國民政府ニ對シ其ノ旨ヲ通報シ且館員並ニ在留民ノ保護方地方官憲ニ訓令スル様要求スルコトト致度(沙市ニ就テハ省政府ニモ同様措置方可然尙ホ再開ノ場合ノ館員ハ差當リ比較的少數ニテ事足ルヘク大体在漢口總領事意見ノ通り沙市ハ書記生一名(支那語出身ニテ多少英語ノ素養アルモノ)巡查部長一名位又重慶ハ領事書記生及警部補各一名巡查二名位トシ差支ナカルヘシ

仰高裁

(欄外記入)

海軍省大賛成ノ由

638

昭和8年8月22日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

華北における党部の排日活動抑制方を黃郛に
申入れについて

第四八一號

上海 8月22日後発
本省 8月22日後着

二十日黃郛ト會見ノ際本使ヨリ華北ニ於ケル黨部ノ現狀ニ關シ質問シ尙天津發北平宛往電第五七號ノ日貨抑留事實及排日風潮擡頭ノ氣配アル次第ヲ指摘シ黃ノ注意ヲ喚起スルト共ニ其ノ取締ヲ要求シタル處黃ハ

一、自分赴任以來黨部ノ行動ニハ最モ注意ヲ拂ヒ既ニ北平ニ於ケル張繼主宰ノ黨部辦事處ハ撤廢セシメ其ノ他各地方黨部ニ對シテハ委員ヲシテ從來ノ如キ排日運動ヲ止メ專ラ地方ノ公益事業等ニ盡力セシムル様隨時指導シツツアリ目下平津ノ黨部ハ大體ニ平穩ニシテ其ノ他ノ地方黨部ハ概ネ有名無實ノ狀態ニ陥リツツアル處尙今後其精々指導ニ努力ス可シト答ヘ

二、只天津地方ノ救國會除奸團等ハ目下黨部ノ指導下ニ非スシテ特種ノ團體タル求○齋會(救濟ヲモジリタルモノ)ナルモノノ指圖ニ屬シ居ル處同會ノ首領ハ親分肌ニテ學良時代ヨリ公安局長等ヲモ脅カシ居ル程ノ非人物ナレハ同會ノ整理取締ニハ折角手配中ナル等ノ實情ヲ述ヘタル上

貨類輸入ノ邦商ニトリ極メテ重大ナル影響アルヲ以テ各國商業會議所並ニ商務官等ヲ動カシ共同シテ使用文字ノ改正及ビ標記方法ノ簡易化ヲ實現スルノ外ナカルベク當方ニ於テ右規則各項ニ就キ具体的研究致居其結果ハ次便ニテ進達ノ運びト可相成

尙使用文字ニ關シテハ對支貿易ニ最モ關係アル英米兩國ハ既ニ自國語ヲ使用スルコトヲ得ルコトナリタレバ其他ノ諸國ガ自國文字以外ニ英文ヲ使用スルコトヲ得ル様交渉スルコトニ合流スル程ノ熱意ハ無クナリ又佛國モ特種商品例ヘバ化粧品、酒類等ニ於テハ佛文ノ使用ハ或ル意味ニテハ品格ヲ高メルモノモアレバ英文文字使用ニハ我國程ノ執着無キヤニ見ラルル節モアリテ、英文使用ヲ貫徹セントスル我國トシテハ有力ナル援助國無キカノ狀況ナリニ、各商品ノ標記方法ニ關シテハ三月廿一日並ニ四月六日附ニテ海關ヨリ各國ニ通牒セシ標記方法ニ對シ各國商社ヨリ事實上不都合ナル諸點ノ改正ヲ申込ミタル結果、六月十五日附ヲ以テ幾分改訂セル標記方法ガ更ニ頒布サレタルガ、英米佛等ハ夫々右標記法ヲ本國商工會議所ヲ通ジテ各製造家ニ通知シ其ノ意見ヲ徴シタレ共今ニ何等ノ同

顯日貨抑留ノ事實ハ最近自分(黃)モ報告ヲ受ケ之カ取締手配中ナル旨及今後ハ此ノ種不法行為ノ發生セサル様取締ヲ履行ス可キ旨約セリ

北平、南京、天津、滿ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

639

昭和8年8月31日

在中国横竹大使館商務參事官より
内田外務大臣宛

輸入貨物への原産国名の標記方法に関する各

国の態度について

商第二二二號

(九月七日接受)

昭和八年八月三十一日

上海駐在商務參事官

横竹 平太郎

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

原産國名標記方法ニ關スル各國ノ態度ニ就テ

一、支那ガ明年一月一日ヨリ施行セントスル原産國名標記ニ關シテハ、第一ニ使用文字ガ支那文字又ハ原産國文字ト限定サレシコト、第二ニ其標記方法ガ煩雜且ツ費用嵩ムモノアルコト等ガ排貨運動ニ惱ム我國商品ニトリ果又雜

(欄外記入一)

答ニモ接セザル由ニテ本件ニ對スル英米佛等ノ商業會議所並ニ商務官ノ意向ハ大略左ノ如シ

米國商務官、米國商業會議所

原産國名標記ハ米國ニ於テモ施行サレテ居リ此上支那政府ニ對シ積極的ニ本案ノ撤回乃至ハ施行延期ヲ交渉スル意思ハ今ノ處無シ

標記方法ハ苛酷ノモノアルガ、米國ニテモ或ル種ノモノハ随分峻嚴ナリ、要ハ貨物到着ノ際實地ニ就キ交渉スル外無カラシガ經濟的ニ餘リ苛酷ナルモノニ就テハ其ノ際抗議シテ可ナリト思フ

英國商務官

本國ニ於テモ英國品ハ Made in England ノ標記ヲナシ居レリ、本國ヨリ何等ノ具体的意見モ來タラザル故目下ノ處支那政府ニ更ニ之ガ改正ヲ交渉スル意思ナシ

標記方法ノ如キハ實物ニ就キ海關當局ト技術的ニ談合シテ改訂ヲスルコトガ近道ナランカト思考ス

佛國商業會議所

本國ヨリ何等具體的意見モ來ラザル故成行ニ委ヌ現狀ナルガ近ク會議開催ノ時議題トナルカハ未定

前述ノ如ク主要ナル通商國ハ標記法ニ關シテハ頗ル冷淡ナル態度ナルヲ以テ、我方トシテハ今後單獨ニテ支那政府並ニ海關當局ニ交渉ヲ繼續スル外無カルベキガ當事務所ヨリハ四月廿日附ニテ標記法邦譯ヲ又四月廿八日附ニテ原文ヲ我邦主要商業會議所ニ送附シ、各當業者ノ專問的研究ヲ俟チ居レルモ本邦會議所ヨリハ當事務所ニ對シテハ直接何等(欄外記入二)回報ナシ

寫 公使 南京 上海 天津 青島 漢口 商工省

(欄外記入一)

米國商議ハ最初ハ一九三五年八月一日迄本件條例ノ實施延期ヲ主張シ居リタリ

(欄外記入二)

六月二十一日附日本商工會議所ノ建議書ハ本省ヨリ在支公使宛送付スミ

640 昭和8年9月19日 在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

對日永久經濟絕交、失地回復、奸漢嚴罰等ニテ(六)各新聞ハ大活字ヲ用ヒ虐殺、侵略等凡ユル暴行ニ遭ヒタルヲ忘ルルコトナク他日ノ報復ヲ期スヘク力ヲ養フヘキヲ強調セルモ過激ニ亘ルモノナシ
支、北平ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

641 昭和8年10月1日 在広東吉田總領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

広州市長に対し反蔣の具としての抗日提唱には無関心であり得ない旨警告について

広 東 10月1日後発
本 省 10月1日後着

第四五五號

九 中国排日問題
三十日他用ニテ劉紀文ヲ市政府ニ往訪ノ際談時局問題ニ及ヘル處劉ハ日支兩國ハ文化ノ程度モ自ラ異リ人民ノ理解ニモ差異アルヲ以テ或問題ニ付兩國方同程度ノ賛成ヲ以テ解決ニ進ムハ仲々困難ナリト述ヘ尙西南ノ反蔣運動ハ蔣ノ飽クヲ知ラサル我慾ヲ抑ヘンカ爲ナル旨述ヘタルニ付本官ハ

南京において九、一八記念日に日貨焼却事件発生について

南京 9月19日後発
本 省 9月19日後着

第四六二號

當地九、一八記念日狀況左ノ通

(一)官民何レモ終日半旗ヲ掲ケ

(二)中央黨部並國民政府ハ總理紀念週例會ト一併午前八時ヨリ又市黨部市政府各團體代表等ハ九時ヨリ舉式

(三)各學校ハ平常通り授業シ歌舞音樂ヲ停止セシメタル外他ハ休業セス

(四)十一時全市一般五分間起立默禱、同時刻第一公園隣接公共体育场ニ於テ抗日會ノ沒收日本品(三十一箱ト報セラレタルカ當日ニ至リ十六箱ノミ燒棄テ十五箱ハ硝子壘ニ付貧民救濟用藥品配布ニ利用スルコトトシ燒棄ヲ見合ハス)ヲ約四百名集合燒却シ萬歲裡ニ解散

(五)官憲ノ警戒嚴重ニテ當館及在留民住宅附近ニ巡警憲兵ヲ増派シ游行ヲ禁シタル由ナルカ「ポストター」ハ各要所ニ貼ラレタリ其ノ字句ハ世界平和ノ破壊者日本帝國主義打倒、

(欄外記入)

本官一己ノ私見トシテ西南ノ反蔣運動其者ハ貴國內政問題ト解シ居ルヲ以テ敢テ云々セサルモ反蔣ノ具トシテ抗日ヲ叫フ場合ニハ無關心ナル能ハス地方政權ト雖我方ニ好意ヲ示ス限り我方トシテハ之ニ報ユルニ吝ナラサルモ我方ニ好意ヲ有セサル地方政權ニ對シテハ自ラ異ル態度ニ出テサルヘカラサルモノナル旨(此ノ點ニ關スル本省ノ御方針ニ付何等御訓令ニ接シ居ラサルヲ以テ本官ハ單ナル私見ナルコトヲ繰返シ念ヲ押シ置キタリ)説キタル處劉ハ日支問題ハ政治的考察以外經濟的及社會的見地ヨリ考慮セサルヘカラスシテ自分ハ本問題ノ解決ニハ兩國官邊以外民間同志直接ニ接觸シテ初メテ良ク了解シ得ヘキモノト信スルヲ以テ民衆殊ニ有識階級ノ意見ニ常ニ耳ヲ傾クルト同時ニ之カ指導ニ心懸ケ居レリト語リタリ
支、北平、南京、滿、福州、厦門、汕頭ヘ轉電シ、香港ヘ暗送セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

(欄外記入)

何故ニ出先キハ我方針ニ付確信ヲ有セサルヤ?

根本方針ハ外務全員ニ徹底スベキコト

642 昭和8年10月1日 在南京日高総領事より
広田外務大臣宛(電報)

使用文字に英字を追加する原産国標記条例修
正の審議状況に関し彭学沛内話について

南京 10月1日後発
本省 10月2日前着

第四九三號

二十九日立法院ニ於ケル秘密會議ノ消息トシテ中國日報ノ報スル所ニ依レハ該會議ニ於テ孫科ヨリ原産國標記條例修正ノ件ヲ呈示シ審議ノ結果本條例第一條ノ精神ハ變更出來サルモ字句ノ修正ハ差支無シトノ意見ニ依リ結局之ヲ財政經濟外交ニ三委員會ニ附託審査セシメ更ニ次期會議ニ於テ討議スルコトナリタル趣ナルカ彭學沛ハ本官ニ對シ本件修正(中國文字及原産國文字ノ外英字ヲ認ム)ハ既ニ九月十九日中央政治會議ヲ通過シ居ルコトニモアリ大体通過ノ見込ナル旨極秘トシテ内話セリ(此ノ點發表見合セラレ度シ)右御參考迄

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ
支、北平、滿へ轉電セリ

643 昭和8年10月2日 在中国中山公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

袁良などに排日的言論および活動の取締方要
求について

北平 10月2日後発
本省 10月3日前着

第四一五號

貴電合第一八一六號、第一八一八號及第一八一九號ニ關シ「華北一帯ニ付テハ追テ黃郛歸平(袁良ノ談ニ依レハ五、六日ノ豫定ナル由)ノ上會談ノ豫定ナルモ差當リノ措置トシテ二日政務委員會秘書長何其鞏ヲ往訪シ排日傾向ノ新聞記事取締並ニ帝國政府ノ政策ニ對シ侮辱的言論ノ指導取締方ニ付懇談シタル處何ハ夫々諒解シ黃郛歸平ノ上之ヲ報告スヘキモ直ニ何等カ方法ヲ設ケテ趣旨ニ副フ様取計フヘキ旨ヲ答ヘタリ

ニ北平ニ關シ二日袁市長ニ會見シ有田公使任命說ニ關スル

第五八四號

二日袁逍逸カ賈伯濤(藍衣社員)ヨリノ聞込トシテ館員ニ内報スル所ニ依レハ南京ニ於ケル抑留日貨ノ燒却(南京發閣下宛電報第四六二號ノ四)ハ南京市黨部内ノ藍衣社員主動ノ下ニ行ハレタルモノニテ其目的ハ藍衣社ノ愛國的行爲ヲ民衆ニ示スト共ニ之ニ依ツテ汪精衛等ノ親日政策ヲ邪魔(往電第四九九號等御參照)スル爲ナル趣ナリ尙藍衣社側ニテハ上海ニ於テモ同様目論見居ルモ當地ニテハ同社勢力未タ確立シ居ラス且ツ抑留日貨モ少ナキ爲其實行ヲ見ルニ至ラサル趣ナリ聞込ノ儘
滿、北平、天津、濟南、青島、南京、漢口、廣東へ轉電シ
上海へ轉報セリ

645 昭和8年10月3日 在広東吉田総領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

広東方面の抗日風潮改善の兆しについて

広東 10月3日後発
本省 10月3日後着

第四五九號

644 昭和8年10月3日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

南京における日貨焼却事件の背景について

上海 10月3日後発
本省 10月3日後着

當方面ニ於ケル日支關係一般ニ關シテハ屢報ノ通りニシテ現在迄ノ處表面依然對日抗爭繼續セラレ一般ノ對日惡感情乃至邦人敬遠の態度尙緩和セラレス各種抗日團體就中救國會ノ活動依然活潑ニシテ邦商トノ取引ノ如キ殆ト全ク杜絶ノ實情ニアリト雖其内面ヲ探ルニ

(i) 實力派ハ終始慎重ノ態度ヲ持シテ比較的時流ニ超然タルモノアルト

(ii) 日貨排斥ノ結果經濟機構ニ變調ヲ來シ支那商民ノ困窮漸ク甚シキニモ拘ラス國防ノ目的等ノ爲最近頻リニ各種新稅附加セラレ加フルニ救國會ハ今ヤ全ク商民ニ對スル搾取機關ト化シ特定人ノ懷ヲ肥スニ過キス民生大イニ狹マリ怨嗟ノ聲漸ク表面化セントシツツアリ更ニ

(iii) 所謂抗日工作ニハ官民ニ稍倦怠ヲ覺ヘ態度ヲ失ヒツツアル等ノ事實ニ依リ大勢徐ロニ變化シ來リ遠カラス當地方ノ對日態度ニモ或ハ何等變調ヲ招來スヘキヤニ考ヘラレ右ニ關スル事例等御參考迄左ノ通り

一、陳濟棠一派ハ今ヤ全ク當地方ノ軍政等各種權力ヲ一手ニ掌握シタルモ其ノ企及スル所ハ單ニ地方政權ノ保持ト地盤ノ維持トニアリ苟モ此ノ兩者ニ支障ヲ來ササルモノニ

ル程度迄ノ抗日氣勢ヲ擧ケシムルモ利害已レニ反スル如キ程度ニ擴大スルニ於テハ自己ヲ生カス爲抗日運動ヲ犠牲ニスル決意アルヤヲ諷シ且「貴下カ此ノ際今少シノ間在任セラレサルハ氣ノ毒ナリ」ト述ヘ居タルカ右ハ一片ノ挨拶ナリトスルモ尙且何物カヲ暗示シ居ルヤニモ解セラレ又市長カ珍ラシクモ唐紹儀等ト共ニ懇談ヲ兼ねテ本官ヲ送別宴ニ招キタル事實或ハ往電第四四八號所報香港華商總會主席ノ親日的態度並香港日本郵船ニテハ支那人買辦公然就職シタル事實等ヲ綜合スルニ人心漸ク抗日ノ風ニ倦ミ大勢徐ニ何トカ此ノ變態時代ヲ打開セサルヘカラストスル氣運ニ向ヒツツアルヤニ察セラル

三、斯クテ此ノ際我方ニ於テ濟棠ト南京トノ了解漸ク緊密ヲ加ヘントスル此ノ機ニ乘シ南京側ヲシテ抗日工作取締ニ關スル命令ヲ單ニ長江筋ノミナラス當地方ニモ及ホサシムルトキハ濟棠トシテモ九、一八當時同様中央ノ命ヲ楯ニ自己ノ面子ヲ落サスシテ而モ常ニ自己ニ禍ヲ醸ス惧アルヘキ抗日策動ヲ抑制シ得ラレサルニモ非スト存セラル要ハ濟棠ヲシテ面子ヲ充分保タシメツツ抗日ヲ牽制セシムル點ニアルヘシ何等御參考迄ニ卑見申進ス

對シテハ理論ヲ超越シテ之ヲ迎ヘ然ラサレハ國民黨ノ主張ヲモ將又元老連ヲモ全ク無視シテ顧ス即チ元老派カ五中全會ノ當地開催ヲ云々スルヤ猛烈ニ之ヲ壓迫シ或ハ本年ノ九、一八紀念日ニハ中央黨部ノ命令ヲ楯ニ西南從來ノ主張ニモ拘ラス何等示威行動ヲ一切禁止シタル等何レモ何等カノ方便ニ出ツル實力派ノ手心ト觀ルヘク一方此ノ派ト蔣介石間ノ妥協協調モ鞏固トナリ這般決定セル五中全會延期ハ中央側カ濟棠等當方面實力派ノ面目ヲ兎モ角立テン爲ノ措置ト考ヘラレ濟棠トシテモ充分之ヲ了解シ居レハ若シ今後此ノ傾向ニシテ愈顯著トナラハ中央政府ノ方針ハ善惡ニ拘ラス當地方ニモ或ル程度ノ影響ヲ齎スヘク斯クテ濟棠等ニ取り殆ト有害無益ノ地方黨部及政客等ノ言動益々力ヲ失ヒ中央ニ親日政策確立スルノ曉當地方ニ於ケル對日傾向亦相當ノ變更ヲ見ル機會ヲ期待セラレサルニ非ス

三、最近本官當地方要人ト會談ノ際ノ印象ハ大体右傾向ヲ窺知スルニ足ルモノアリ就中往電第四五一號所報ノ通唐紹儀ノ如キハ「西南ノ抗日云々ト言フモ要スルニ聲ノミニテ意トスルニ足ラス云々」ト語り暗ニ實力派ノ遣口ハ或

支、北平へ轉電セリ

646 昭和8年10月9日 在福州守屋總領事より
広田外務大臣宛(電報)

台灣籍民への圧迫措置に端を発した公安局による我が總領事館警察官連行事件発生について

福州 10月9日後発
本省 10月9日後着

第二九一號

一、七日夕刻十餘名ノ公安局探偵隊員市內臺灣人李某宅ニ犯人捜査ヲ名トシテ闖入「ピストル」ヲ發射シテ威嚇二三押問答ノ末右李ヲ逮捕シ折柄右事件ヲ耳ニシ事情調査ノ爲巡邏先ヨリ馳セ付ケタル當館臺灣人巡查李財旺ヲモ公安局迄同行ヲ要求シ自働車ニテ公安局ニ赴ク途中更ニ二個所ノ臺灣人宅ニ入り同シク「ピストル」ヲ發射シツツ威嚇臺灣人四人ヲ逮捕シ引揚ケタル事件發生ス同夜深更直ニ警察署長ヲ現場及公安局ニ派シ事情取調ト共ニ當館巡查及籍民ノ身柄釋放ヲ嚴重要求セシメタルモ當直ノ係員ハ公安局長不在ノ故ヲ以テ一同ヲ釋放セス八日午後ニ

支、南京、厦門、廣東、汕頭、臺灣總督へ轉電セリ

647 昭和8年10月10日 在福州守屋総領事より
広田外務大臣宛(電報)

公安局の我が警察官連行事件につき軍艦派遣
を要請について

福州 10月10日後発
本省 10月10日後着

第二九五號

往電第二九一號ニ關シ

其ノ後探査ノ結果ニ依レハ原因ハ往電第九一二號二項ノ範圍ヲ出テサルモ事件ハ公安局長ノ指揮又ハ諒解ノ下ニ庶民壓迫ヲ目的トシテ行ハレタルモノナル事疑無ク當館巡査ニ同行ヲ求メ其ノ儘此ヲ留置シタル事モ局長ノ指金ト認メラレ其ノ遣口ニ徴スルニ我方ニ於テ實力ヲ行使スルカ如キ惧無シト多寡ヲ括リ居ル様思ハル右ハ不屈至極ナルヲ以テ先方ニ於テ言ヒ聞キノ餘地無キ當館巡査留置ノ點ヲ強調シ公安局長ノ不法ヲ手厳シク詰問(共同調査ノ點ハ冒頭往電ノ通)スルト共ニ之ヲ機會ニ豫テヨリノ公安局巡警ノ傍若無

至リ本官ヨリ直接省政府ニ交渉シタルモ(責任者ノ所在ヲ突キ止ムル能ハス書面ヲ係員ニ送付ス)李巡查以外ハ九日一應公安局長ニ於テ事情聴取ノ上ナラテハ釋放シ難シトテ之ニ應セサリキ

三、事件ノ原因ハ客月末(往電第二八九號末段參照)泰隆洋行海產物ヲ馬尾ヨリ運送ノ途中抑留セル抗日會員及探偵ヲ籍民數名カ撲リタルニ對シ探偵隊員カ意趣返シヲセントセルモノト察セラル籍民青年團員二三名ノ者カ探偵隊員ト數同女ノ問題ニテ喧嘩セルコトモ原因ナラム

三、本件ハ極メテ質ノ好カラヌ事件ナルニ依リ將來斯ノ如キ事件ヲ起ササル様特別嚴重ナル交渉ヲ爲スヲ要スト考ヘ九日省政府員又ハ公安局長ヲシテ探偵隊員暴行ノ現場ヲ本官又ハ警察署長ト共ニ臨檢セシメ又本官直接醫師ヲ伴ヒ公安局ニ拘禁中ノ籍民(中三名ハ負傷シ居レリ)ヲ訪問スルコトトシ右省政府ニ申入レタリ

籍民及日本人側トモ非常ニ興奮シ密ニ報復手段ヲ協議シ居リ此ノ分ニテ進メハ更ニ不祥ナル事件ヲ發生スルノ惧アリ警戒中

臺灣總督府ヨリ馬公及臺灣軍へ轉電アリタシ

人ナル一切ノ行動ヲ一々追及シ將來再ヒ官憲指導ノ日貨排斥等起ラサル様何等カノ具體的保障ヲ取付クルニ努ムル事ト致度尙此ノ際軍艦ノ來航ヲ得或ル種ノ威壓ヲ加フル事有意義ナリト考ヘ馬公ニ右ノ次第依頼セリ場合ニ依リテハ相當數ノ武裝兵ヲ上陸(昨年ハ軍艦來航ノ都度四、五十名ノ武裝兵上陸スルヲ例トセルモ今年ハ期クノ如キ事無カリキ)セシメ及馬尾、福州間水路ノ警戒ニモ任セシムル事トナル可シ本件ニ關シ御氣付ノ點本官心得迄折返シ御同示ヲ得度シ支、南京、廣東、汕頭、厦門へ轉電シ北平へ暗送セリ

648 昭和8年10月11日 広田外務大臣より
在福州守屋総領事宛(電報)

福州公安局の我が警察官連行事件に關し威圧
策容認について

本省 10月11日後5時0分發

第四〇號(極秘)

貴電第二九五号ニ関シ

支那側ノ遣口及態度ニ鑑ミ御來示ノ通實力行使ニ至ラサル程度ニ於テ可然威圧ヲ加フルコトハ問題解決上機宜ニ適ス

ト認メラル、ニ付冒頭貴電ノ方針ニヨリ善処セラレ差支ナシ尤モ其ノ結果在留内台人ヲ刺戟シ越軌行動ニ出テシムルカ如キコト無キ様嚴重御手配アリタシ
海軍ト打合スミ
支、南京、廣東、汕頭、厦門へ轉電セリ

649 昭和8年10月11日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

原産國標記条例の実施延期に關する汪兆銘の
内話について

上海 10月11日後發
本省 10月11日後着

第五九八號(極秘扱)

十日日本使汪兆銘ト會見ノ際汪ハ今回本使ヨリ(脱?)シタル原產地表記問題(南京發閣下宛電報第四四九號)ニ關シ本件ハ其ノ後研究ノ結果行政院關係各部ニ於テハ英文ヲ使用シ差支ナキ事略纏マリ未タ確定迄ニ至ラサルモ自分ノ主張ハ九分通り成功シタルモノト認メ居レリト語リタルニ付本使ハ英文使用モ左ル事乍ラ表記ノ實行困難ナル商品鮮カラス

且ツ規定ノ期限ヨリ實施スル事ハ當業者ノ實行困難ナル事情アリ此ノ點ハ如何ト質問シタルニ汪ハ表記困難ノモノニ付尙研究中ナルカ實施期モ差當リ相當ノ延期ヲ爲ス事ニ詮議中ニテ多分延期シ得ヘキ望アル旨答ヘタリ(當分發表セサル様致度シ)

北平、南京、滿ヘ轉電セリ

編 注 本電は同日発在中国有吉公使より広田外務大臣宛第
五九七号(第575文書)の別電。

650 昭和8年10月13日 在南京日高総領事より
広田外務大臣宛(電報)

南京における日貨焼却事件などに関連して排日運動の嚴重取締方を外交部などに申入れについて

南京 10月13日後着
本省 10月13日後着

第五二三號

貴電第三六號及貴電合第一八一九號ニ關シ

六日唐有壬ヲ往訪日貨焼却事件ニ付國民政府ノ深甚ナル注

意ヲ喚起シ有田公使任命ノ噂ニ關スル新聞記事ニ付テモ貴電御來示ノ趣旨ヲ強調シ取締方要求シタル處唐ハ其ノ重大性ヲ了解シ居リ種々取締ノ困難ヲ訴ヘタル上今後共充分注意スル様關係方面ニ傳フヘキ旨ヲ答ヘタリ(日貨焼却ニ關シ唐ノ内話ニ依レハ各地ニ於テ此ノ種ノ催ヲ爲ス計畫アリタルモ斯テハ過激ニ走ル惧アルニ付之ヲ止メシムル爲中央ニテ引受クル形式トシタルモノナリト云フ)

更ニ二十二日憲兵司令ヲ往訪シ同様ノ趣旨ヲ申入レ首都ノ治安維持及排日取締振カ日本輿論ニ及ホス影響ノ甚大ナルヲ指摘シ且最近ノ事件(九月廿八日市内目拔ノ雜貨店ニ爆彈ヲ投シタルモノアリ死傷ハ無カリシ由)ニ言及シ排日運動ノ嚴重取締方要求シタル處谷司令ハ政府トシテハ極力取締ニ苦心シ居リ日貨焼却ハ自分モ反對ナリシカ之ヲ差止ムルハ却テ民衆運動ヲ激發スル惧アリシ爲不本意乍ラ見逃シタル次第ナリトテ新聞記事取締ノ苦心ト共ニ申譯ヲ爲シ爆彈事件ニ關シテハ六月(機密第四五八號往信參照)以來軍政部ノ命令モアリ眞面目ニ糾彈ノ措置ヲ講シツツアリトテ種々陳辯シタルニ依リ本官ヨリ將來事前ニ充分取締ラレ度旨申入レ置キタリ

當地ハ中央政府所在地タルニ拘ラス却テ他地方ニ比シ排日運動盛ナルヤノ觀アル處由來當地ニハ大ナル商店無ク日貨排斥ニ依リ損失ヲ蒙ル實業界ノ勢力微々タルニ反シ所謂

壯士の政客ノ勢力大ニシテ中央黨部モ市黨部ノ矯激ナル態度ヲ押ヘ兼ネ政府官憲ハ直接排日運動抑制ノ意アルハ明カニ看取セラルルモ民衆運動及新聞記事等ヲ徹底的ニ取締ルヲ敢テセサル實狀ナレハ本官ニ於テ隨時取締責任者ニ對シ實例ヲ舉ケテ有效ナル取締方要求ヲ繰返ヘシ其ノ努力ヲ促シ居ル次第ナリ

支、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州ヘ轉電セリ
廣東ヨリ香港ヘ轉報アリ度シ

651 昭和8年10月14日 在南京日高総領事より
広田外務大臣宛(電報)

福州公安局の我が警察官連行事件に関し外交部に注意喚起について

南京 10月14日前発
本省 10月14日後着

第五二四號

本官發支宛電報
第五四五號

貴電第六一六號ニ關シ

十一日上海ニ赴キタル汪部長ハ十三日朝歸寧セルニ付早速面會ヲ求メタル處十三日中ハ多忙ノ爲都合付カス且十四日唐有壬等ヲ伴ヒ南昌ニ赴ク模様ナリシニ付十三日唐ヲ往訪シ大臣發閣下宛電報第二一〇號ノ趣旨ニ依リ福州ニ於ケル官憲ノ排日振及七日ノ籍民逮捕事件ヲ説明シタル上適當措置方申入レ右ノ次第ヲ汪部長ニ取次カレタシト述ヘタルニ唐ハ今回ノ事件ニ關シテハ未タ外交部ニ何等入電ナキヲ以テ早速實情問合スヘキ處何分福建省當局ニ對シテハ南京政府ノ威令完全ニ行ハレサル實情ナレハ政府ヨリ正式ニ訓令ヲ發スルモ其ノ效鮮カルヘキヲ恐ルトテ困難ナル内情ヲ縷述シタルカ同日夜ニ至リ唐ヨリ本官申入ノ次第ヲ汪ニ通シ考究ノ結果差當リ外交部ヨリ福建當局ニ對シ今回ノ事件ノ實情調査報告方訓令スルト共ニ汪ノ名義ニテ排日行動抑止方電報スルコトニ決定セル旨電話シ來レリ

大臣、北平、廣東、厦門、福州、汕頭ヘ轉電セリ

652 昭和8年10月14日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

原産国標記条例の英字使用容認に関する修正
経緯について

上海 10月14日後発
本省 10月14日後着

第六〇六號

往電第五八一號ニ關シ

十三日「バレンチエン」ハ横竹ニ對シ標記問題ニ付日獨佛
及多數小國カ英語使用ヲ希望シ居ル旨曩ニ政府ニ報告シタ
ル處政府部内ニハ歐米諸國ニ對シテノミ英語使用ヲ許スヘ
シトノ意嚮アル趣聞知シタルニ付「バ」ハ宋子文ニ對シ各
國一様ニ英語ヲ認ムルコト然ルヘキ旨建言シ宋子文之ニ同
意シタル結果修正ノ手續ヲ進ムルコトナリタル次第ナリ
ト内話シ居タル趣ナリ尤モ同日唐有壬ノ日高ニ對スル内話
ニ依レハ本問題ニ關シ立法院ニ於テハ原案ヲ固執シ修正ヲ
承認セシムルコト困難ナル形勢ニテ場合ニ依リテハ其儘實
施延期トスルノ外ナキカト觀測セラルル由ナリ
北平、南京ヘ轉電セリ

清汽船ノ支那人乘客ハ當地ニ於テハ下船者ノミニテ乗船者
モ無カリシ處十四日宜昌ヘ上航ノ際始メテ約十名ノ乗船者
アリタリ

地方ノ治安ハ徐源泉軍ニ依リ維持サレ居リ四川軍トノ聯絡
協調モ成立シ居ルモノノ如ク共匪ノ危險除去サレ居ルモ連
年ノ匪害水害ノ爲地方ノ民間疲弊甚シキカ如シ

排日團體タル沙市民衆救國會ハ有名無實ノ狀態ニシテ商務
會長ノ如キモ該會ノ委員トシテ名ヲ連ネ居ルモ本人ノ直話
ニ依レハ右ハ勢已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ地方民
ノ購買力減退セル現在ニ於テハ如何ニシテモ安價有利ナル
日本品ヲ取引スルニ非サレハ營業不能ナリトテ本官ノ援助
ヲ希望シ居レリ
概況右ノ如クナルカ今日迄ノ所邦人商社員ノ來住者一名モ
無シ

大臣、支、北平、南京、滿ヘ轉電アリ度シ
宜昌ヘ暗送セリ

654 昭和8年10月17日 在福州守屋總領事より
広田外務大臣宛(電報)

653 昭和8年10月16日 在漢口清水總領事より
広田外務大臣宛(電報)

沙市における領事館再開後の対日風潮について

漢口 10月16日後発
本省 10月16日後着

第二九一號

沙市發本官宛電報

第二號

本官着任以來十日間當地支那側全般ニ亘リ接觸ノ結果軍部
ヲ始トシ地方官民共ニ對日感情良好ニシテ官憲側ハ進ンテ
保護方ヲ申出テ商民モ日貨取引ノ有利ナルコトヲ強調シ居ル
狀態ニシテ當館並在留民ノ遺留財産ハ完全ニ保管サレ居レリ
棉花米穀等ノ土產物ハ近時稀ナル出來榮ナルカ之カ買付並
日本品ノ賣込ニ關シテハ關稅並地方稅等ノ關係上沙市以外
ノ下流商市ニ於テ行フヲ有利トスルモノアル模様ナルカ當
地邦人商社留守居支那人ノ申出ニ依レハ自分等支那人カ日
本人ニ代ツテ賣買ヲ敢行スルコトハ其ノ結果ニ對シテ責任
ヲ負フコト不可能ナルモ邦人ノ出張ヲ見領事館保護ノ下ニ
之ヲ行フコトハ何等支障無カルヘシト述ヘ居リ尙又從來日

公安局の我が警察官連行事件に関し関係者の処
罰等を要求する公文を省主席に提出について

福州 10月17日後発
本省 10月17日後着

第三〇二號

往電第二九五號ニ關シ

「貴電第四一號ノ趣旨ヲ參酌シ左記各項ヲ内容トスル公文
ヲ十四日省政府主席蔣光鼐ニ提出セリ

(一) 第一項ニ於テ事件ノ顛末ヲ要述ス

(二) 第二項ニ於テ事件ハ畢竟省政府カ官民ノ排日及毎日ヲ
取締ラサルニ起因スルヲ明ニシ相當強硬ナル文言ヲ以
テ公安局巡警及救國會員ノ日貨掠奪並公安局巡警ノ籍
民ニ對スル暴行及其ノ他ノ不法措置(臨檢、搜索、逮捕
及拘留ヲ含ム)ヲ嚴重取締ル爲必要ナル命令ヲ公安局
長ニ發スヘキ事ヲ要求ス

(三) 第三項ニ於テ李巡査拉致ノ點ニ關シ其ノ重大事故ナル
事ヲ指摘シ蔣主席ヨリ公文ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表シ且ツ
將來同様ノ事件ノ起ラサル事ヲ保障スル旨言明スヘク
又責任者ヲ免職及懲戒スヘキ事ヲ要求ス

四特ニ第四項中ニ本官カ今回ノ事件解決ニ關聯シ公安局長ニ提議セル共同調査ノ結果作成セラルヘキ報告書及右報告ニ對シ表示スルコトアルヘキ本官ノ意見特ニ公安局巡警ト籍民トノ紛擾ヲ防止スル方法ニ關スル意見ニ深甚ナル考慮ヲ拂フコトヲ附言セリ

ニ、公文提出ノ際本官ヨリ莫參議ニ(蔣主席及林知淵トモ面談ヲ回避ス)内容ヲ詳細説明シ本官要求ノ全部ヲ容認スル様蔣ヲ説得スヘキ旨述ヘタル處莫ハ蔣カ今回ノ事件ヲ甚タ遺憾トシ九日公安局長ニ真相調査報告方及此ノ上籍民ト問題ヲ起ササル様嚴命ヲ發スヘキ事ヲ命シ其結果公安局長ハ責任者タル王偵緝隊長ヲ譴責シ籍民ノ多數居住シ居ル區域ニ於ケル偵緝隊ノ職務ヲ擧ケテ警査隊ニ移ス等ノ措置ヲ講シタリト言ヒ(此ノ點ハ十日公安局長ヨリモ其秘書ヲ派シ通報アリタリ)事件ヲ至急平和的ニ解決スヘキ事蔣ノ意思ナリト述ヘタリ

三、十六日莫參議本官ヲ來訪シ蔣ニ於テ本官要求ノ全部ヲ容認シ切實ナル取締ヲナス事ニ決定セリ公文ハ十八日之ヲ持參スヘシト述ヘ就テハ籍民カ巡警ト事ヲ構フルカ如キ事ナキ様本官ニ於テモ然ル可キ取締ヲ行ハレ度シトノ希

第三〇六號

往電第三〇二號ニ關シ

一、十八日蔣光鼐ヨリ回答アリ次テ莫參議來訪内容ニ付説明シ了解ヲ求ム、回答ハ例ニ依リ煮切ラサルモノニシテ官憲ノ排日干與ノ點ニ付今日迄累次戒告ヲ發シタリト述ヘ李巡查ノ逮捕ノ點ニ付遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ王偵緝隊長ヲ譴責セリトノ趣旨ヲ揭ケ居ルモ回答全体トシテハ辯解釜數キ文句多キニ過クルニ依リ本官ハ十九日莫ヲ訪問シ此ノ點ニ言及セルニ彼ハ即座ニ辯解釜數キ部分ノ削除ニ同意シ二十日右ニ依リ訂正セル公文(委細公信)ヲ送附シ來レリ本官トシテ右回答カ相當誠意アルモノトハ認ムルモノヲ以テ満足トスル次第二ハアラス依テ更ニ蔣主席ニ對シ公安局ノ反日干與其ノ他ノ不法措置ヲ嚴重取締ル事ニ關スル意思表示ノ明瞭ヲ缺ク點ヲ指摘スルト共ニ公安局今後ノ出方ヲ重大ナル關心ヲ以テ注視スルモノナル事ヲ述ヘタル公文ヲ二十一日附ニテ送附スルコトトセリ(一先ツ交渉ヲ打切ル意味ナリ但シ事件ノ共同調査ハ續行セシメ右調査中忌憚ナク先方ノ非違ヲ指摘セシムルト共ニ調査ノ結果作成セル報告書ヲ適當ノ方法ニ依リ先方

望ヲ開示セリ本官ハ然ルヘク之ニ應酬シタル後問題ハ回答其者ニアラス省政府及公安局長カ右回答ノ内容ヲ切實ニ實行スルヤ否ヤニアリ本官ハ中國官憲今後ノ遣口ヲ重大ナル關心ヲ以テ注視スルモノナル事ヲ明カニセリ

四、回答ノ内容ハ受領シタル上ナラテハ満足ナルモノナリヤ否ヤ明カナラサルモ蔣光鼐ノ態度比較的誠意アル様看取セラルル次第ナリ大体事件ハ之ニテ片附ケ得ル見込尙本官ハ省政府係官ヲ通シ公安局長ニ對シ爾今當館警察ノ代表者及公安局係官カ一週一度會合ノ上事務上ノ打合せヲナシ以テ相互ノ誤解ヲ去リテハ如何ト提議シ置ケルニ對シテモ先方ヨリ無條件ニ贊意ヲ表シ來レリ右不取敢支、南京、漢口、汕頭ヘ轉電シ北平、廣東、厦門ヘ暗送セリ

655

昭和8年10月21日

在福州守屋總領事より
広田外務大臣宛(電報)

公安局の我が警察官連行事件に対する我が方要求への省政府側の妥協的な対応振りについて

福州 10月21日後発
本省 10月21日後着

ヲ反省セシムル目的ニ利用ス)

三、今回ノ事件ヲ機トシ公安局長ヲ手酷ク追及シ度ク其ノ爲ニ示威的ナル海軍兵員ノ上陸(武裝ハセス但シ武裝ヲ別ニ運搬シテ萬一二備フル方法ニ依ル)モ或ハ必要カト考ヘタリシ次第ナルモ籍民側ニ於テ自重的態度ヲ採リ(十日臺灣公會ノ會合ヨリ歸途ニ就ケル數名ノ籍民等カ二、三ノ巡警ト毆り合ヲ爲シタル事件アリタル由)公安局側ニテモ嚴重ニ巡警ノ行動ヲ取締リタル結果双方ノ感情漸次冷却スルニ至レル一方事件以來蔣主席ハ莫ヲ數度本官(ノ許)ニ派シ事件ノ再發ヲ極力防止スヘキ事ヲ言明シ且ツ極秘ノ含ヲ以テ泰隆洋行ノ海產物ヲ抑留セル抗日會員ヲ抗日會ノ名義ヲ利用シ惡事ヲ働キタルモノトシテ極刑ニ處スル筈ナル事ヲ内報シ來リタル外本官ニ對シ從來ニ比シ著シク妥協的ナル態度ヲ示シタル次第有リ(素ヨリ眞ニ誠意有ルヤ疑ハシ)強ヒテ喧嘩腰ニ出ツルモ如何ト考ヘ海軍側トモ相談ノ上臨機應變ノ處置ヲ取りタル次第ナリ御含ヲ請フ

尙十八日莫ハ本官ニ對シ臺灣籍民ハ上海事件ヲ惹起セル十九路軍關係者ハ引續キ排日ニ熱中シ今回ノ事件モ其ノ

一表現ナルカ如ク考へ居ルラシキモ蔣ニハ斯克ノ如キ者全然無ク漸次日支關係ヲ常道ニ復サンカ爲努力シ居ルモノナルニ付右ノ次第本總領事ヨリ籍民ニ徹底セシメラレ度又臺灣人ヲ省政府ニ出入セシメ感情緩和ニ資セラレ度シトノ趣旨ヲ蔣ノ傳言トシテ本官ニ通告セルヲ以テ蔣自身ヨリ直接斯克ノ如キ言明ヲ聴取シ度キコトヲ明カニシ二十日蔣ト會見方莫ニ申入レタル處蔣ハ十九日突如財政廳長及公安局長ト共ニ廣東ニ向ケ出發シ其ノ目的ヲ果シ得サリキ(彼ハ十日頃廣東ニ行ク筈ナリシニ今回ノ事件ノ爲延期セルモノナリト莫ハ辯明セリ)

支、北平、南京、漢口、汕頭へ轉電シ廣東、厦門へ暗送セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

656

昭和8年10月24日 在福州守屋總領事より
広田外務大臣宛(電報)

対日關係を考慮して国民政府は省主席を更迭
するとの風説について

福州 10月24日後発
本省 10月24日後着

スル論説ヲ執拗ニ掲記シ居タリ)及對日問題特ニ排日緩和ノ件ニ付意見ヲ交換スル爲ナリトノ情報ハ稍信ヲ置クニ足ル様思考ス(陳濟棠ハ二十日附ヲ以テ廣東ノ抗日會ヲ解散シ官民ノ日本官憲トノ交際ヲ自由ナラシムル等親日の措置ヲ講シタリトノ報道數日前ヨリ當地ニ流布セラル)ニ、以上ノ情報ニ關聯シ苛斂誅求ヲ事トセル爲福建人ノ恨ヲ買ヒ居ル十九路軍カ今次共匪討伐ノ不成績ニ依リ軍事上ノ聲望迄モ失ヒ漸ク苦境ニ立ツニ至レルコトハ何人モ疑ノ餘地無キ處ナルカ今回十九路軍關係者ナルモ安徽人ニシテ蔣介石トモ聯絡アル戴戟ヲ省政府主席トスルハ十九路軍ノ面目ヲ立テツツ福建人ノ感情ヲ緩和スルモノニシテ又同時ニ日本ノ福建ニ對スル關心ヲ小ナラシムルモノナル次第アリ戴戟(現民政廳長未赴任)ニ依リ省政府改組ハ實現可能性アル様觀測セラル尙排日問題ニ付中央ノ對日策ノ轉換ト歩ヲ一ニシ福建ニテモ排日ヲ止メ以テ日本ノ歡心ヲ買ヒ漸次福建ノ重苦シキ空氣ヲ一掃スルコト政局ノ安定及景氣回復ノ爲望マシトノ意見當地政府委員孫希文林知淵及其ノ他有力者ノ支援スル所トナリ蔣光鼐モ右意見ヲ傾聴セサルヲ得サルニ至レリトノ情報ヲ最

第三〇八號

一蔣光鼐ノ廣東行(十九日)及林森ノ來福(二十三日)共ニ唐突ノコトナリシカ更ニ陳銘樞モ香港ヨリ十六日突如漳州ニ到着兩三日前極秘裡ニ福州入り目下綏靖公署ニ滞在ナルコト探知セラレタリ依テ諜知ニ努メタル處林森ノ入福ニ付省政府方面ヨリ入手セル情報ニ依レハ中央政府ハ抗日ヲ看板トスル十九路軍關係者ヲ福建政府ニ止マラシムルコトハ日本ノ對南支政策ヲ硬化セシムルモノニシテ中央政府ニ於テ對日政策轉換ヲ考慮シ居ル此ノ際特ニ面白カラストシ戴戟(民政廳長ナルモ赴任シ居ラス)ヲシテ省政府主席タラシムルコトヲ決定シ今回林森ヲ派シ陳銘樞、蔣光鼐及蔡廷楷ヲ説得セシメ居ルモノナル趣ナリ中央政府カ斯ノ如キ行動ニ出ツルニ至レル直接ノ動機ハ七日ノ公安局巡警ノ籍民逮捕事件ニ關シ示シタル我方ノ強硬態度ナリトノ説アリ蔣光鼐ノ廣東行ニ付テハ陳濟棠ノ招電ニ依ルコトハ確實ナルモ赴廣ノ目的ハ判然セス右ニ關シ陳カ漸ク彼ノ意見ニ聽從スル傾向ニアル蔣ト中央ノ意ヲモ体シテ對中央妥協問題特ニ分前ヲ受ケテ宋子文ノ棉麥借款ヲ承認スル件(最近迄當地新聞ハ右借款ニ反對

近屢本官ノ耳ニセル處ナリ事情更ニ電報スヘキモ不取敢支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭へ轉電シ厦門へ轉報セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

657

昭和8年10月31日 在福州守屋總領事より
広田外務大臣宛(電報)

我が方抗議公文に対し日貨排斥への関与禁止
を公安局に厳命した旨の省政府回答について

福州 10月31日後発
本省 10月31日後着

第三一六號
往電第三〇六號ニ關シ
十八日附省政府回答文ニ對シ二十三日附ヲ以テ冒頭往電前段ノ趣旨ヲ述ヘタル公文ヲ提出シ置ケル處三十日省政府ヨリ臺灣籍民ノ貨物輸送ニ關シテハ既ニ省政府ヨリ公安局及水巡隊ニ對シ注意スル様嚴命セリ巡警又ハ排日團體ニ於テ今後絶對ニ抑留又ハ沒收等ヲ爲ササルコトヲ保證ストノ趣旨回答越セリ
海軍側ニ轉報アリタシ

冒頭往電ノ通轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

658 昭和8年11月12日 在福州守屋總領事より
広田外務大臣宛(電報)

排日問題における省政府側の日本に対する妥協的態度の背景について

福州 11月12日後発
本省 11月12日後着

第三一七號(部外極秘)
往電第三一二號ニ關シ

一、陳及蔣ハ廣東ヨリ十日來着直ニ林森ト會見セル模様(十日朝林知淵ノ本官ニ談話セル所ニ依ル)ナルモ此等政客ノ往來カ如何ナル影響ヲ西南乃至福建ノ政局ニ及ホスヘキヤ今ノ處信賴スヘキ情報ヲ得ス但シ戴^戴民政廳長トシテ近ク來任スルコト丈ハ林知淵ノ本官ニ確信セル所ニシテ戴來任ノ結果二三公安局長外二三ノ高級役人ノ異動アルコト丈ハ想像シ得新聞等カ何等要人ノ來往ニ付報道ヲ爲ササルコトカ却テ重要ナル政局ノ異動ヲ暗示ストナス

コト當地外國人間ノ一致セル觀測ナリ

三、當地政局ノ推移等ニ關シ何等暗示ヲ受ケ得ヘキカト考ヘ當地到着以來人ト面會ヲ避ケ居ル風アル林森ヲ目立タサル方法ニ依リ十日林知淵ト共ニ其私邸ニ訪ヒ種々意見ヲ交換セルモ何等得ル處無カリキ(此ノ際本官ハ當地ノ排日空氣ニ對シ一言セル處彼ハ本官ニ於テ一層緊密ニ省政府ト聯絡セラルルコトヲ希望ス兩國ノ商業關係ハ漸次好轉スルコトヲ期待ストノ趣旨ヲ述ヘタリ)

三、當地ノ排日空氣カ共產軍ノ脅威以來多少緩和セルコトハ往電第二八九號ニモ言及セル所ナルカ昨今特ニ海產物及「バナナ」ノ入荷相當アリ賣行モ惡カラス公安局員又ハ反日團等ノ日貨排斥モ目立タサルニ至レリ事實日貨排斥緩和ノ傾向アルコト及省政府カ往電第三六一號^(三六九)ノ如キ回答ヲ本官ニ寄セ從テ想像シ得サル如キ妥協的態度ヲ示シ居ルコトニ付省政府ノ態度ノ變化カ稍唐突ノ様ニモ見受けラレ本官ニ於テ多少薄氣味惡ク感スル次第ナリ依テ反日緩和ノ原因ノ那邊ニアルヤ即チ中央ノ命ニ依リ一時的ノモノナルヤ又省政府カ自發的ニ從來ノ反日政策ヨリ轉換セントシツアルモノナリヤ各方面ニ就キ探查セルモ

尙確實ナル所分明セス然ル處最近李宗仁及陳銘樞カ西南ヲ率キテ反蔣ノ態度ヲ明示シ先ツ十九路軍ニ依リ福建ノ獨立ヲ畫シ其援助ヲ既ニ我方有力筋ニ申入レタリトノ報道ヲ相當確實ナル筋ヨリ本官ニ於テ入手セリ右報道ニシテ事實ナリトセハ今回ノ省政府ノ妥協的態度ハ右策動ノ結果ナリト見サルヘカラサルノミナス又西南政局及日支關係ニ對シ重大ナル影響アル事項ナリト思惟セラルルニ付右聞込ノ儘報告ス(此ノ項ニ付詳細暗號ニテ郵報ス部外秘ニ願度シ)

支、北平、南京、漢口、廣東、汕頭、厦門ニ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

659 昭和8年11月15日 在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

原産國標記條例の實施延期を行政院決定について

南京 11月15日後発
本省 11月15日後着

第六〇〇號

十五日彭學沛ノ内話ニ依レハ原產地標記條例修正ノ件ニ關

シ立法院側ハ行政院カ日本ノ壓迫ニ屈シタルモノト爲シ通過頗ル困難ナル爲十四日ノ行政院ニ於テ同條例ノ實施ヲ更ニ六ヶ月延期スルコトニ決シタルモ前記ノ經緯ニ鑑ミ發表ヲ差控ヘ居ル趣ナリ
累次電報ノ通目下支那内政關係頗ル機微ノ際ニモアリ我方ニ於テモ本件發表ノ方法及時期ニ付テハ慎重ナル考慮ヲ加ヘラルル様致度シ
支、北平、天津、青島、漢口、廣東、福州、滿へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

660 昭和8年11月18日 広田外務大臣より
在中国堀内公使館一等書記官宛(電報)

交通部による九、一八國恥記念切手発売中止
要求方訓令

本省 11月18日後3時40分発

第二三七號

十七日發時事上海特電ニ依レハ交通部ハ近ク九、一八國恥記念切手ヲ發賣スル計画ヲ發表セル趣ナルニ付テハ果シテ事實ナルニ於テハ右ハ日支關係改善ニ関スル國民政府当路

者累次ノ言説ニモ悖リ時節柄甚ク面白カラサルニ付支那側ニ対シ其ノ中止方嚴重要求アリ度
滿、北平、南京ニ轉電セリ

661

昭和8年11月21日 広田外務大臣より
在ハノイ手塚(浩介)総領事館事務
代理宛(電報)

雲南への領事館再開に先立ち同地方排日状況調査方訓令

付記一 十一月十六日付亜細亜局第一課起案高裁案
(同月十八日裁可)

「在雲南領事館再開方準備措置ノ件」

二 昭和九年一月六日發在ハノイ手塚総領事館事務代理より広田外務大臣電報第一号

雲南地方排日運動鎮靜化の傾向について

本省 11月21日後7時40分發

第三二號

最近支那ニ於ケル排日情勢ノ緩和ハ漸次奧地ニモ及ヒツツアルモノト認メラルル處當方トシテハ曩ニ日支事變後引揚

同 年十一月十八日裁可

在雲南領事館再開方準備措置ノ件

一、在雲南領事館ハ大正七年ヲ以テ開設セラレタルモノナルカ當時ハ勿論其ノ後モ本邦人居留民極メテ少ク(昭和六年十月領事館引揚當時ノ在留本邦人二十七人、但内三人ハ領事館關係ノモノナリ)且本邦ノ同方面ニ對スル通商關係モ比較的薄キニ顧ミ右設置ハ民國第三革命以來ノ雲南地方カ支那政局上ニ於テ重大ナル地位ヲ占メタルコト及同地方カ佛支關係上ノ重要地點タルコト等主トシテ政治的必要ニ基クモノト解セラル

(欄外記入)

二、昭和六年九月滿洲事變勃發以來ノ支那各地ニ於ケル反日狀況ニ顧ミ在雲南領事館ハ在留本邦人全部ト共ニ同年十月引揚ケタル儘今日ニ及ヒ居ル次第ナルカ最近支那各地ニ於ケル反日風潮ハ著シク緩和シ現ニ反日風潮等ノ爲閉鎖中ナリシ領事館中既ニ再開ヲ了シ又ハ近ク再開セラレルヘキモノハ張家口、沙市、杭州、重慶ノ四個所ニシテ殘ス所ハ雲南、成都、鄭州ノ三個所ナリ但シ成都ハ差當リ再開ノ見込立タス又鄭州ハ先般在漢口總領事館調査ノ結果ニ依ル同地方反日狀況并ニ同地方關係ノ本邦人綿業

ヲ行ヘル各領事館ヲ右形勢ニ伴ヒ漸次再開スルノ方針ヲ執リ既ニ在沙市、杭州、張家口及重慶各館ヲ復歸セシメタリ雲南地方ノ形勢ニ關シテハ曩ニ貴電第一四號末段ノ次第ハアルモ最近排日ノ緩和ハ前記ノ如ク相當奧地ニモ擴充セラレ居ルモノト認メラルル一方保田、府上兩洋行家屋問題ニ關スル本年八月二十七日附有吉公使宛汪外交部長來信(八月二十九日附南京發公使宛機密第二八二號公信附屬)末段ニ於テ日本人ニシテ雲南ニ復歸スル場合ニハ責任ヲ以テ保護スヘキ旨言明シ居ル次第モアルニ付出來得レハ此ノ際在雲南領事館ヲ再開シ度キ意向ナリ

就テハ同地方最近ノ排日狀況至急御探索ノ上同電アリ度尙印度支那側トシテハ雲南日本領事館ノ復歸ヲ必スシモ歡迎セサルモノト想像セラレ旁雲南ノ排日ニ關スル佛國側情報ハ相當誇張ノ嫌ナキニ非ルヘキヤニ思考セラルルニ付此ノ点御含アリ度

支、北平、南京、廣東へ轉電セリ

(付記一)

昭和八年十一月十六日起草

者ノ意見等ニ徴シ至急再開方困難ナルト共ニ其ノ必要モ少キヤニ思考セラル

三、然ルニ雲南ニ付テハ前記政治的理由ニハ何等ノ變更ナク(雲南ノ有スル支那政局上ノ重大性ハ最近比較的輕減セラレタルモ佛支關係上ノ重要性ハ滿洲事變後却テ増大セルモノト認ム)又同地方ノ反日狀況ニ關シテハ安田、府上兩洋行家屋處分問題ニ關聯シ本年五月末在河内總領事館ヨリ「當方ニテ得タル情報ニ依レハ雲南ノ排日氣勢今尙盛ニシテ本邦人ノ入國ハ頗ル危險ナリ」云々ト電報ハアリタルモ右ハ本邦人ノ雲南入ニ必スシモ好感ヲ有セサル佛國側ノ氣分ヲ反映シ居ルニ非スヤトモ思考セラルル一方同問題ニ關スル本年三月十五日附國民政府外交部發在支公使館宛公文ハ該問題處理ノ爲在河内日本總領事館ヨリ雲南ニ派員セムコトヲ求メ居リ又同年八月二十七日附ノ第二回公文ニハ「雲南省治安ニ異狀ヲ認メサルニ就テハ若シ日本人ニシテ復歸、居住又ハ營業スル場合合同省官憲ハ責任ヲ以テ之カ保護ニ當ルヘキハ云フヲ俟タス」云々トアル次第ニテ旁々在雲南領事館再開ノ時期到來セルヤニ認メラル

四、就テハ此ノ際主義上右再開方ヲ決定スルト共ニ差當リ左記ノ如キ準備措置ヲ執ルコトト致度

(イ)在河内總領事館ヲシテ雲南地方ノ反日狀況ヲ調査セシムルコト(同總領事館ノ手不足ニモ顧ミ差當リ必スシモ現地出張ヲ要セス)

(ロ)右調査ノ上更ニ現地ニ人ヲ派シ調査セシムルコト(其ノ際印度支那側ニ保護及便宜ノ供與ヲ要求スルコト得策ナルヘキヤ否ヤハ攻究ヲ要スヘキモ支那側ニ對シテハ前記八月二十七日附外交部公文ニ引掛ケ保護方要求スヘキコト可然カ)

(ハ)委細ハ本件原則決定ノ上更ニ攻究スルコト

右仰高裁

(欄外記入)

昭和八年広東來電第五五七号及昭和九年河内來電第一号等ニ顧ミ本高裁案四ノ(ロ)ノ現地調査ヲヤメ直ニ開館スルコト、シ但シ人線ノ都合上本年三月過ニ実行ニ着手スルコトニ人事課長打合ズミ

守島(九、一、八)

(付記二)

ハノイ 昭和9年1月6日後発
本省 昭和9年1月6日後着

第一號

客年貴電第三三號ニ關シ

在雲南佛國領事並雲南鐵道會社等ヨリ得タル情報ニ依レハ雲南ノ政情平穩治安狀態良好ニシテ排日示威運動ハ本邦人引揚ニヨリ消滅セリ尤本邦品ニ對シ抗日會ニ於テ依然輸入ヲ阻止シツツアリ排日運動根絶セルニ非サレハ本邦人復歸后ノコトハ豫斷シ難キモ支那側官憲ノ保障ヲ取付クルニ於テハ本邦人ノ雲南入りハ危險ナカルヘシト云フ就テハ領事館ヲ再開スル様致度シ

支ヘ轉電セリ

支ヨリ北平ヘ轉報アリタシ

廣東ヘ暗送セリ

編注 雲南領事館は昭和九年六月十三日再開。

662

昭和8年11月21日

在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

九、一八国恥記念切手の発売中止を唐有壬に
申入れについて

南京 11月21日後発

本省 11月21日後着

第六一七號

在支公使宛貴電第二三七號ニ關シ

本件報道ハ十七日ノ當地新聞ニモ掲載セラレタルカ二十日本官唐有壬ト會談ノ際右記事ヲ示シ御訓電ノ次第ヲ申入レタル處中止方ニ關シ早速朱交通部長ト相談スヘシト答ヘタリ支、北平、滿ヘ轉電セリ

663

昭和8年11月21日

在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

首都における排日活動に関する我が方抗議への
中国側当局の対応振りについて

南京 11月21日後発

本省 11月21日後着

第六一九號

當地抗日會ノ活動ハ今尙熾マス本月ニ入り十四日ト十六日ノ兩日ニ爆彈投入事件三回アリ本官ハ往電第五二三號末段ノ通機會アル毎ニ唐有壬、彭學沛、陳儀、谷正倫等ニ對シ眞面目ニ之カ取締方要求ヲ繰返シタル處谷正倫ハ南京警備司令ノ名ニ於テ十九日附布告ヲ以テ商民ヲ脅喝シ爆裂物ヲ投入シテ治安妨害市面擾亂ヲ敢テスル者ヲ嚴重處分スヘキ旨ヲ明カニセリ

尙最近ハ抗日會検査員カ商人ニ毆打サレタル事件再出シ爆彈投入ニ對シ非難ノ聲高マリ居ル等抗日會ニ對スル商民間ノ不滿モ時々表示セラレ居ル事實アリ委細郵報支、北平、蘇州、杭州、蕪湖、九江、漢口ヘ轉電セリ支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

664

昭和8年12月4日

在漢口谷口總領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

重慶における領事館再開後の対日風潮について

漢口 12月4日後発

本省 12月4日後着

第三七五號

重慶發本官宛電報

第三號

大臣、支、南京へ轉電アリタシ

本官二十日就任ノ旨二十一日書翰ヲ當地關係機關へ送達致シタルニ對シ何等回答ナク奇異ノ感ナキニアラサリシモ二十三日夫々訪問申入レタル處李警備司令ハ病氣馮縣長ハ他地ニ出張ノ由ヲ以テ斷り來り商會溫主席ハ待チ受クル旨第一師長唐式遵ハ時刻變更ヲ希望シ回答アリ仍テ二十四日午前十一時ヨリ先ツ市政府へ次ニ二一軍司令部ニ赴キタルニ

何レモ未登廳トテ門前拂ニ遭ヒ當日ハ溫、唐兩人丈ケ會見シ唐ハ舊知タルニ依リ特ニ歡待セリ

市長潘文華ハ軍務ニ依リ目下成都ニアル由ナレハ代理者タル石秘書長ヲ二十五日往訪シ唐、石兩人ハ答訪シ來レリ昨日郭參謀長(劉湘代理)李警備司令へ改メテ五日ニ訪問申入レタルニ對シ兩人共待チ受クル旨回答アリタルカ今朝ノ新聞ニ依レハ本官ト應接方ニ付善後督辦處ヨリ二十二日外交部へ問合せタルニ對シ常ノ通接待スヘキ旨二十八日同電アリタル趣ニテ其旨當地各軍政機關へ轉達セル趣ナリ

十 雜 件

1 中国軍の上海停戦協定区域内通過問題

665 昭和8年2月(8)日 在上海石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に對する我が方抗議措置について

付記一 昭和七年六月十三日發在中國重光(葵)公使より齋藤(寒)外務大臣宛電報第九五〇号

協定区域内中国軍通過問題に關し共同委員會開催について

二 昭和七年六月十三日發在中國重光公使より齋藤外務大臣宛電報第九五一号

右問題に對する共同委員會中立委員決定

上海 發
本省 2月8日後着

十 雜 件
第三七號

八日陸戰隊側ヨリ七日支那軍約五、六千、列車ニテ「マールカム、ロード、ジャンクシヨン」ヲ通過シ南京ヨリ杭州方面ニ向ヘル旨(同方面ニ於ケル劉珍年軍ノ幹部兵變ヲ起セルヲ以テ蚌埠駐屯ノ第四師急遽南下セルモノナルヤニ傳ヘラル)報告アリタルヲ以テ共同委員會委員陸戰隊專任參謀角田中佐トモ相談ノ上明九日本官ヨリ支那側委員俞鴻鈞ニ對シ客年六月支那軍ノ協定區域通過ノ際ニ於ケル中立國委員ノ決定(客年公使發閣下宛電報第九五〇號)ヲ引用(シ)本件支那軍通過ハ停戦協定違反ナル點ヲ指摘シ抗議スルト共ニ今後協定區域内支那軍通過ノ際ハ豫メ當方ニ通告ノ上其ノ承認ヲ求ムヘキ旨要求スル意向ナリ尙本件ハ共同委員會ニモ通告シ同委員會ヲ通シ今後無通告ニテ軍隊ヲ通過セシムル等ノ事無キ様適當措置スル筈目下議會開會中ニテ又本件ハ既ニ新聞通信員ニ依リ内地ニ電報セラレタル次第モアリ右不取敢

北平、南京、滿へ轉電シ支へ轉報セリ